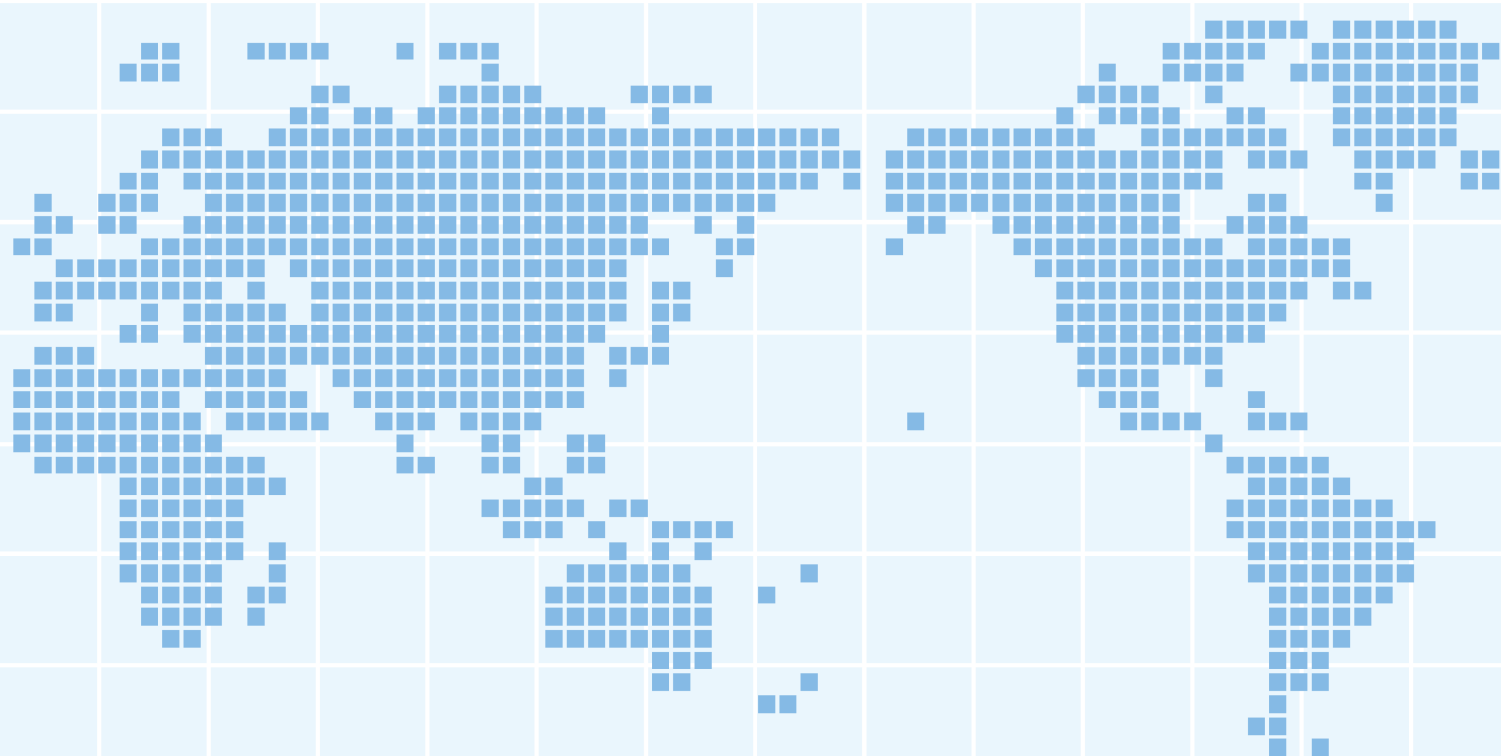


外国人留学生の 採用・就職に関する データ集



－ 『外国人留学生の採用・就職に関するデータ集』 について－

本データ集は、

■企業側の「外国人留学生」の採用状況

■外国人留学生側の、現在日本で就業している元留学生を含めた、就職活動事情

について、定量調査および定性調査を実施し、まとめたものです。

留学生在日本での就職活動を行う上で、障害や不利となったことや困ったこと、日本で就職する際の日本企業の取り組みとして良いと思うものなどを掲載しております。

「留学生」のよりよい就職・採用における、活動支援や支援施策をご検討される際などで、参考資料となれば幸いです。

－ 内 容 －

調査概要	3
1) 企業の「外国人留学生」の採用状況	4
2) 日本への留学前後における、日本での就業意向	6
3) 日本への留学前後における、母国での就業意向	7
4) 日本への留学前後における、日本や母国以外での就業意向	8
5) 日本で働きたい理由	9
6) 日本で働きたい期間	11
7) 外国人留学生の就職活動に関する所属大学・大学院の支援内容	12
8) 外国人留学生が日本での就職活動時に困ったこと	13
9) 日本での就職活動において、障害や不利となったこと	14
10) 「外国人」ならではの強み・弱みだと思うこと	15
11) 外国人留学生が日本で就職する際、長く働けたり等の日本企業の の取り組みとして良いと思うもの	16
12) 卒業後の進路を考える上で、影響を与えたもの	17
13) 日本語能力について	18
14) 「就職活動」について、元外国人留学生が感じたこと	19
15) 「外国人留学生」について、大学側が感じていること	22

「外国人留学生」に関する参考資料

参考資料 1) 外国人留学生数の推移、出身地域別、日本国内地域別の留学生数	24
参考資料 2) 外国人留学生の卒業（修了）後の進路状況	26
参考資料 3) 出入国基本計画の変遷	28
参考資料 4) 「外国人留学生」に関する文献	30

調査概要

調査名 : 「2017年卒(大学生・大学院生)の採用活動振り返り調査」

調査目的: 新卒採用に関する企業の活動実態を把握する

調査方法: 郵送調査

調査時期: 2016年12月18日～2017年1月25日

調査対象: 全国の新卒採用を実施している従業員規模5人以上の企業4,501社

回収社数: 1,229社(回収率27.3%)

調査名 : 「外国人留学生・就業者の就職活動に関する調査」

調査目的: 外国人留学生および元外国人留学生(現在就業者)の就職活動に関する状況を明らかにする

調査方法: インターネット調査(調査票は、日本語および英語にて作成。どちらかを選択して回答)

調査時期: 2017年3月24日～30日

調査対象: 留学生・・・日本の大学・大学院に在籍し、就職活動を実施または実施予定の外国人留学生

就業者・・・日本の大学・大学院を卒業し、日本での就職活動経験者の現在日本で外国人就業者(元外国人留学生)

※調査協力: 株式会社クロス・マーケティング

サンプル数: 留学生 286人 就業者(元外国人留学生) 100人

調査名 : 「企業へのヒアリング調査」

調査目的: 新卒採用の状況について明らかにする

調査対象: 新卒採用を実施している企業の人事

調査方法: 半構造化インタビュー(対面または電話にて、各社30分～1時間)

調査時期: 2016年7月～2017年3月

サンプル数: 8社

調査名 : 「元外国人留学生へのヒアリング調査」

調査目的: 元外国人留学生へ、就職活動前後の大学の支援状況や、就職活動時の状況等について明らかにする

調査対象: 日本の大学または大学院を卒業/修了し、現在日本で就業している元外国人留学生(卒業/修了後3年以内)

調査方法: 半構造化インタビュー(対面にて各人1.5時間)

調査時期: 2016年9月～10月

サンプル数: 10人

調査名 : 「大学へのヒアリング調査」

調査目的: 就職活動に関する学生の状況や、外国人留学生に対する就職等の支援内容や就職状況について明らかにする

調査対象: 大学キャリアセンターや外国人留学生支援を行っている教員・教職員

調査方法: 半構造化インタビュー(対面にて各校1時間)

調査時期: 2016年7月～2017年1月

サンプル数: 7校

<用語の定義>

元外国人留学生: 日本の大学または大学院を卒業/修了後、現在日本での就業している者。本データ集では「元留学生」とも表記している

留学生: 現在、日本の大学または大学院に在籍している外国人学生

大学院卒: 便宜上、「大学院修了」を「大学院卒」と表記しているところもある

◀調査結果を見る際の注意点▶

- %を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計値や差の数値と計算値が一致しない場合がある。

参考データ

「ワークス大卒求人倍率調査」リクルートワークス研究所

「Global Career Survey」リクルートワークス研究所(2013年)

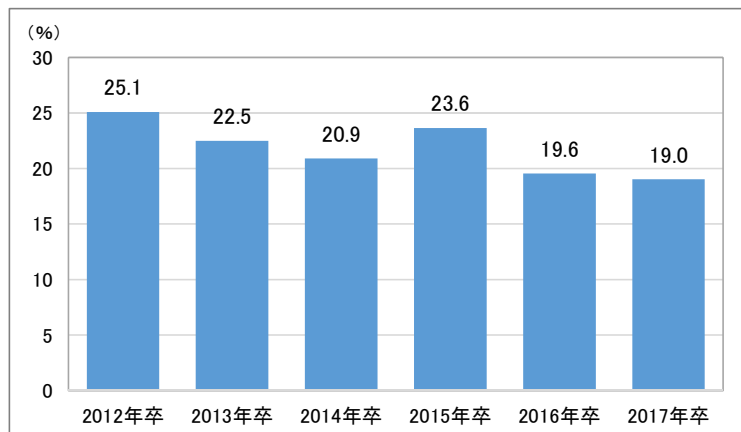
1) 企業の「外国人留学生」の採用状況

新卒採用を実施している企業において、日本の大学・大学院卒業/修了予定の外国人留学生採用状況を見ると、2012年卒（調査開始年）から最新の2017年卒では、20%前後となっている。外国人留学生の採用実施企業のうち、採用枠を別途設定して実施している企業は、10%前後である。

従業員規模別に見ると（次ページ）、規模が大きくなるにつれて採用実施が高くなっているが、採用枠を別途設定しているのは、規模が小さくなるにつれて高くなっている。

業種別に見ると（次ページ）、2017年卒では「製造業」が最も高く、「サービス・情報業」が続いている。

■ 日本の大学・大学院卒業/修了予定の外国人留学生の採用状況



	n	(%)		参考) 大卒求人倍率
		日本の大学・大学院卒業外国人留学生採用	左記実施企業のうち、採用枠を別途設定	
2017年卒	1130	19.6	11.8	1.74倍
2016年卒	1130	19.6	9.0	1.73倍
2015年卒	1053	23.6	4.8	1.61倍
2014年卒	1124	20.9	10.1	1.28倍
2013年卒	889	22.5	15.5	1.27倍
2012年卒	646	25.1	9.3	1.23倍

※大卒求人倍率: リクルートワークス研究所

参考) 「外国人留学生」の採用についての企業コメント (「企業へのヒアリング調査」より)

□外国人留学生は、積極的に採用している訳ではないが、いい方がいればという風に考えている。留学生の応募は、毎年一定数ある。留学生と日本人学生とでは、選考目線で見ると、やはり日本語力というところが、残念ながら劣るといった印象。あとは、本当に将来も日本で働くかどうかという、本人の決意がどうか。面接ですっと働きたいというが、そもそも働きたいと思う理由について掘り下げて聞いても、学生にとってあまり必然性はないのかなという印象を受ける。(金融業)

□外国人留学生の採用は、今回(2017年卒)が初めて。特に積極的に採るといえるのはしていない。普通に、他の学生と一緒に感じで行っている。今回は、留学生より直接人事に連絡をしてきた。言葉の心配があったので、2週間くらいインターンシップに来てもらい、人となりを見させてもらい、内定を決めた。(製造業)

□外国人留学生の採用を行っていたが、来年度は少し見直そうと考えている。応募があり、いい人であれば採用していくというようにしていたが、最近はちょっと難しくなってきたという感じがする。入社の手続きやVISAの件など難しいところもある。長く働いて欲しいと思っても、途中で帰国されたり、辞められたりする傾向があるので、日本国内で活躍できるような人材の方がよいのでは、という方向に。海外からの観光客も増えていることもありポテンシャルにも期待しているので、店舗を経験後、本社にという流れにしているが、この流れに対しての溝が、なかなか埋まらない。(サービス・情報業)

□国籍に関係なく、優秀な人は採りますよ、というのが大前提。ブリッチパーソンで言うと、日本と海外拠点を結びパーソンが必要だが、定期的にそういう人が多くいるかという、そういう訳ではない。日本人であっても、最近外国語が堪能な人が増えてきているので、英語ベースでやってもらったりしている。また、海外拠点で立ち上がってくれば、むしろ現地の幹部人材を含めた人材が必要となってくる。(製造業)

□外国人留学生の採用は、昔に採用したことはあったようだが詳しくは不明。今回(2017年卒)、突然一人採用してほしいということになったので、採用した。全くノウハウもなく、外国人を採用したことのある人事の社員もいなかった。今後は採用していくと思う。現地法人がアジア圏内にあるが、そこの完全現地化を目標としているため、現在日本人が出向と駐在でいるが、こちらを現地化していく。現地から逆トレーニーという形で、日本に一年間研修をして戻ってもらう。(流通業)

□外国人留学生を採用しはじめたのは、2000年代半ばくらい。事業がグローバルに展開をしていくなかで、ダイバーシティを大事にしようということから海外人材の採用を考えた。留学生を採用する際の課題としては、言葉といつまでいてくれるかという、コミュニケーションと定着の問題。最初はずっと日本で働きたいと言ってくれるが、入ってしばらくすると、そうでもないような気持ちが出てくる様子が見られる。言葉の問題はあるが、それよりも、違う国にいつまでいるか、ということだと思う。(製造業)

「2017年卒(大学生・大学院生)の採用活動振り返り調査」

1) 企業の「外国人留学生」の採用状況

■ 日本の大学・大学院卒業/修了予定の外国人留学生の採用状況

□ 従業員規模別

(%)

		n	日本の大学・大学院卒外国人留学生採用	
			左記実施企業のうち、採用枠を別途設定	
2017年卒	1000人未満	657	13.4	21.4
	300人未満	277	6.9	26.3
	300~999人	380	13.4	19.6
	1000人以上	409	32.5	6.8
	1000~4999人	303	30.0	9.9
	5000人以上	106	39.6	-
2016年卒	1000人未満	694	11.0	15.8
	300人未満	271	8.5	26.1
	300~999人	423	12.5	11.3
	1000人以上	436	33.3	5.5
	1000~4999人	341	29.6	5.9
	5000人以上	95	46.3	4.5
2015年卒	1000人未満	577	12.7	8.2
	300人未満	203	9.4	10.5
	300~999人	374	14.4	7.4
	1000人以上	455	38.2	2.9
	1000~4999人	334	34.4	-
	5000人以上	121	48.8	8.5
2014年卒	1000人未満	606	11.7	-
	300人未満	240	5.0	-
	300~999人	366	16.1	11.9
	1000人以上	400	34.5	11.9
	1000~4999人	315	32.1	10.9
	5000人以上	85	43.5	5.4
2013年卒	1000人未満	514	14.6	14.7
	300人未満	193	8.3	18.8
	300~999人	321	18.4	13.6
	1000人以上	302	34.8	16.2
	1000~4999人	240	32.1	16.9
	5000人以上	62	45.2	14.3
2012年卒	1000人未満	358	15.6	8.9
	300人未満	91	12.1	18.2
	300~999人	267	16.9	6.7
	1000人以上	244	38.9	8.4
	1000~4999人	195	36.9	9.7
	5000人以上	49	46.9	4.3

□ 業種別

(%)

		n	日本の大学・大学院卒外国人留学生採用	
			左記実施企業のうち、採用枠を別途設定	
2017年卒	建設業	82	14.6	25.0
	製造業	358	27.1	13.4
	流通業	228	15.8	11.1
	金融業	103	2.9	-
	サービス・情報業	292	18.8	7.3
2016年卒	建設業	98	13.3	-
	製造業	399	27.1	9.3
	流通業	229	12.7	10.3
	金融業	105	10.5	27.3
	サービス・情報業	299	20.1	6.7
2015年卒	建設業	76	17.1	-
	製造業	388	32.7	3.1
	流通業	191	17.3	3.0
	金融業	118	8.5	10.0
	サービス・情報業	262	24.4	7.8
2014年卒	建設業	81	11.1	22.2
	製造業	370	30.8	13.2
	流通業	210	14.8	3.2
	金融業	107	7.5	-
	サービス・情報業	299	19.4	3.4
2013年卒	製造業(旧分類)	373	29.8	15.3
	流通業	171	17.0	17.2
	金融業	68	4.4	-
	サービス・情報業	208	21.2	15.9
2012年卒	製造業(旧分類)	282	32.6	9.8
	流通業	128	16.4	4.8
	金融業	44	2.3	-
	サービス・情報業	152	25.7	7.7

※2014年卒より、5分類としている

※2012・2013年卒の「製造業(旧分類)」には、「建設業」が含まれる

2) 日本への留学前後における、日本での就業意向

日本での就業意向について、【留学前】と、元留学生（就業者）は【就職活動時点（以下、活動時点）】、留学生は【現点】で見ている。

元留学生では、現在日本で働いていることもあるが、【留学前】よりも【活動時点】の方が、「働きたかった・計」が高くなっており、「働きたくなかった・計」は低くなっている。

留学生では、【留学前】よりも【現時点】の方が、「働きたい・計」が高くなっている。

大学生と大学院生ごとに見ると、大学生、大学院生ともに、【留学前】よりも【現時点】の方が、「働きたい・計」が高くなっている。

■ 日本への留学前後における、日本での就業意向状況(単一回答)

□ 元外国人留学生(就業者)

(%)

	n	働きたかった	どちらかという と働きた かった	どちらともい えない	どちらかとい うと働きた く な か つ た	働きたくな かった	働きたか つ た ・ 計	働きたくな か つ た ・ 計
「留学前」	100	34.0	36.0	15.0	9.0	6.0	70.0	15.0
大学卒	44	36.4	34.1	15.9	9.1	4.5	70.5	13.6
大学院卒	56	32.1	37.5	14.3	8.9	7.1	69.6	16.1
文系	59	35.6	37.3	15.3	6.8	5.1	72.9	11.9
理系	41	31.7	34.1	14.6	12.2	7.3	65.9	19.5
「活動時点」	100	49.0	33.0	16.0	2.0	-	82.0	2.0
大学卒	44	50.0	29.5	18.2	2.3	-	79.5	2.3
大学院卒	56	48.2	35.7	14.3	1.8	-	83.9	1.8
文系	59	45.8	30.5	22.0	1.7	-	76.3	1.7
理系	41	53.7	36.6	7.3	2.4	-	90.2	2.4

□ 外国人留学生

(%)

	n	働きたかった /働きたい	どちらかとい うと働きた かった/働 きたい	どちらともい えない	どちらかとい うと働きた く な か つ た/働 きたくない	働きたくな かった/働 きたくない	働きたか つ た /働 きた い ・ 計	働きたくな か つ た /働 きた く な い ・ 計
留学生全体								
「留学前」	286	40.2	30.8	19.6	7.3	2.1	71.0	9.4
文系	156	45.5	30.1	17.9	5.8	0.6	75.6	6.4
理系	130	33.8	31.5	21.5	9.2	3.8	65.4	13.1
「現時点」	286	47.6	38.1	11.5	1.4	1.4	85.7	2.8
文系	156	51.9	38.5	7.7	0.6	1.3	90.4	1.9
理系	130	42.3	37.7	16.2	2.3	1.5	80.0	3.8
大学生								
「留学前」	146	45.2	30.8	15.8	8.2	-	76.0	8.2
文系	90	48.9	26.7	16.7	7.8	-	75.6	7.8
理系	56	39.3	37.5	14.3	8.9	-	76.8	8.9
「現時点」	146	50.7	37.7	8.9	0.7	2.1	88.4	2.7
文系	90	52.2	38.9	5.6	1.1	2.2	91.1	3.3
理系	56	48.2	35.7	14.3	-	1.8	83.9	1.8
大学院生								
「留学前」	140	35.0	30.7	23.6	6.4	4.3	65.7	10.7
文系	66	40.9	34.8	19.7	3.0	1.5	75.8	4.5
理系	74	29.7	27.0	27.0	9.5	6.8	56.8	16.2
「現時点」	140	44.3	38.6	14.3	2.1	0.7	82.9	2.9
文系	66	51.5	37.9	10.6	-	-	89.4	-
理系	74	37.8	39.2	17.6	4.1	1.4	77.0	5.4

「外国人留学生・就業者の就職活動に関する調査」

3) 日本への留学前後における、母国での就業意向

母国での就業意向について、【留学前】と、元留学生（就業者）は【就職活動時点（以下、活動時点）】、留学生は【現時点】で見てみる。

元留学生は、【留学前】よりも【活動時点】の方が、「働きたくなかった・計」が高くなっている。

留学生は、【留学前】と【現時点】の「働きたい・計」は、同率であるが、「働きたくない・計」は【現時点】の方が高くなっている。

大学生・大学院生ごとに見ると、大学生は【留学前】と【現時点】では「働きたい・計」は高くなっているが、大学院生は低くなっている。

■ 日本への留学前後における、母国での就業意向状況(単一回答)

□ 元外国人留学生(就業者)

(%)

	n	働きたかった	どちらかという と働きた かった	どちらともい えない	どちらかとい うと働きたく なかった	働きたくな かった	働きたかつ た・計	働きたくな かった・計
「留学前」	100	22.0	28.0	21.0	13.0	16.0	50.0	29.0
大学卒	44	22.7	29.5	22.7	11.4	13.6	52.3	25.0
大学院卒	56	21.4	26.8	19.6	14.3	17.9	48.2	32.1
文系	59	20.3	25.4	18.6	11.9	23.7	45.8	35.6
理系	41	24.4	31.7	24.4	14.6	4.9	56.1	19.5
「活動時点」	100	20.0	25.0	22.0	16.0	17.0	45.0	33.0
大学卒	44	22.7	31.8	18.2	13.6	13.6	54.5	27.3
大学院卒	56	17.9	19.6	25.0	17.9	19.6	37.5	37.5
文系	59	22.0	23.7	23.7	11.9	18.6	45.8	30.5
理系	41	17.1	26.8	19.5	22.0	14.6	43.9	36.6

□ 外国人留学生

(%)

	n	働きたかった /働きたい	どちらかとい うと働きた かった/働き たい	どちらともい えない	どちらかとい うと働きたく なかった/働 きたくない	働きたくな かった/働 きたくない	働きたかつ た/働きたい 計	働きたくな かった/働 きたくない 計
留学生全体								
「留学前」	286	27.6	27.6	30.4	8.0	6.3	55.2	14.3
文系	156	27.6	25.6	30.8	10.3	5.8	53.2	16.0
理系	130	27.7	30.0	30.0	5.4	6.9	57.7	12.3
「現時点」	286	27.3	28.0	23.4	11.9	9.4	55.2	21.3
文系	156	25.0	25.6	26.9	14.1	8.3	50.6	22.4
理系	130	30.0	30.8	19.2	9.2	10.8	60.8	20.0
大学生								
「留学前」	146	29.5	26.7	29.5	7.5	6.8	56.2	14.4
文系	90	28.9	24.4	28.9	10.0	7.8	53.3	17.8
理系	56	30.4	30.4	30.4	3.6	5.4	60.7	8.9
「現時点」	146	34.9	26.7	20.5	6.8	11.0	61.6	17.8
文系	90	33.3	25.6	22.2	8.9	10.0	58.9	18.9
理系	56	37.5	28.6	17.9	3.6	12.5	66.1	16.1
大学院生								
「留学前」	140	25.7	28.6	31.4	8.6	5.7	54.3	14.3
文系	66	25.8	27.3	33.3	10.6	3.0	53.0	13.6
理系	74	25.7	29.7	29.7	6.8	8.1	55.4	14.9
「現時点」	140	19.3	29.3	26.4	17.1	7.9	48.6	25.0
文系	66	13.6	25.8	33.3	21.2	6.1	39.4	27.3
理系	74	24.3	32.4	20.3	13.5	9.5	56.8	23.0

「外国人留学生・就業者の就職活動に関する調査」

4) 日本への留学前後における、日本や母国以外での就業意向

日本や母国以外での就業意向について、【留学前】と、元留学生（就業者）は【就職活動時点（以下、活動時点）】、留学生は【現時点】で見てみる。

元留学生は、【留学前】と【活動時点】では、「働きたい・計」および「働きたくない・計」ともに多少低くなっている。

留学生は、【留学前】と【現時点】では、「働きたい・計」が高くなっているが、「働きたくない・計」は低くなっている。

■ 日本への留学前後における、日本や母国以外での就業意向状況(単一回答)

□ 元外国人留学生(就業者)

(%)

	n	働きたかった	どちらかという働きたかった	どちらともいえない	どちらかという働きたくなかった	働きたくない	働きたかった・計	働きたくない・計
「留学前」	100	29.0	30.0	18.0	9.0	14.0	59.0	23.0
大学卒	44	34.1	27.3	13.6	13.6	11.4	61.4	25.0
大学院卒	56	25.0	32.1	21.4	5.4	16.1	57.1	21.4
文系	59	27.1	32.2	18.6	6.8	15.3	59.3	22.0
理系	41	31.7	26.8	17.1	12.2	12.2	58.5	24.4
「活動時点」	100	26.0	32.0	22.0	7.0	13.0	58.0	20.0
大学卒	44	29.5	31.8	15.9	9.1	13.6	61.4	22.7
大学院卒	56	23.2	32.1	26.8	5.4	12.5	55.4	17.9
文系	59	25.4	32.2	20.3	6.8	15.3	57.6	22.0
理系	41	26.8	31.7	24.4	7.3	9.8	58.5	17.1

□ 外国人留学生

(%)

	n	働きたかった/働きたい	どちらかという働きたかった/働きたい	どちらともいえない	どちらかという働きたくなかった/働きたくない	働きたくない	働きたかった/働きたい・計	働きたくない/働きたくない・計
留学生全体								
留学前・計	286	29.0	25.2	28.3	7.3	10.1	54.2	17.5
文系	156	32.1	22.4	30.1	6.4	9.0	54.5	15.4
理系	130	25.4	28.5	26.2	8.5	11.5	53.8	20.0
現時点・計	286	31.5	30.1	23.8	6.6	8.0	61.5	14.7
文系	156	31.4	30.1	25.6	5.1	7.7	61.5	12.8
理系	130	31.5	30.0	21.5	8.5	8.5	61.5	16.9
大学生								
「留学前」	146	32.9	22.6	28.8	8.9	6.8	55.5	15.8
文系	90	37.8	18.9	28.9	7.8	6.7	56.7	14.4
理系	56	25.0	28.6	28.6	10.7	7.1	53.6	17.9
「現時点」	146	36.3	29.5	22.6	5.5	6.2	65.8	11.6
文系	90	41.1	28.9	18.9	5.6	5.6	70.0	11.1
理系	56	28.6	30.4	28.6	5.4	7.1	58.9	12.5
大学院生								
「留学前」	140	25.0	27.9	27.9	5.7	13.6	52.9	19.3
文系	66	24.2	27.3	31.8	4.5	12.1	51.5	16.7
理系	74	25.7	28.4	24.3	6.8	14.9	54.1	21.6
「現時点」	140	26.4	30.7	25.0	7.9	10.0	57.1	17.9
文系	66	18.2	31.8	34.8	4.5	10.6	50.0	15.2
理系	74	33.8	29.7	16.2	10.8	9.5	63.5	20.3

「外国人留学生・就業者の就職活動に関する調査」

5) 日本で働きたい理由

元留学生（就業者）の【就職活動時点】、留学生の【現時点】で、日本で「働きたかった/働きたい」「どちらかという働きたかった/働きたい」の回答者にその理由を聞き、上位3項目を見てみた。

元留学生は、「日本のビジネススタイルなど学ぶところがある」「語学力を活かした仕事ができる」「賃金水準が高い」である。文理別に見ると、文系は、「語学力を活かした仕事ができる」「日本のビジネススタイルなど学ぶところがある」「賃金水準が高い」「日本へ留学したことで働きたいと思った」で、理系は、「日本企業の技術や製品・商品力が高い」「日本のビジネススタイルなど学ぶところがある」「賃金水準が高い」となっている。

留学生では、「日本企業の技術や製品・商品力が高い」「日本のビジネススタイルなど学ぶところがある」「研修など人材育成を行っている」である。文理別に見ると、文系は、「日本のビジネススタイルなど学ぶところがある」「日本企業の技術や製品・商品力が高い」「賃金水準が高い」で、理系は、「日本企業の技術や製品・商品力が高い」「研修など人材育成を行っている」「日本のビジネススタイルなど学ぶところがある」となっている。

■ 日本で働きたい理由(複数回答)

□ 元外国人留学生(就業者)

		(%)										
	n	日本企業は従業員を大切に する	日本のビジネススタイルなど 学ぶところがある	日本企業の技術や 製品・商品力が高い	日本企業のブランド イメージが良い	賃金水準 が高い	研修など 人材育成 を行っている	終身雇用 で雇用が 安定して いる	母国に日 本企業が 進出して いる・進出 予定	学校で学 んだ専門 性を活か せる	語学力を 活かした 仕事ので きる	
就業者全体	82	23.2	43.9	34.1	23.2	40.2	29.3	24.4	11.0	19.5	42.7	
大学卒	35	20.0	40.0	34.3	20.0	40.0	20.0	25.7	14.3	8.6	31.4	
大学院卒	47	25.5	46.8	34.0	25.5	40.4	36.2	23.4	8.5	27.7	51.1	
文系	45	22.2	46.7	26.7	24.4	40.0	37.8	28.9	8.9	20.0	60.0	
理系	37	24.3	40.5	43.2	21.6	40.5	18.9	18.9	13.5	18.9	21.6	

	n	日本人とは仕事 がしやすそう	日本へ留 学したこ とで働きた いと思っ た	大学等 の先生に 日本での 就職を勧 められた	母国での 就職が難 しい	日本以外 で働きた くない	その他
就業者全体		11.0	37.8	3.7	13.4	2.4	8.5
大学卒		11.4	34.3	-	8.6	2.9	8.6
大学院卒		10.6	40.4	6.4	17.0	2.1	8.5
文系		11.1	40.0	2.2	11.1	4.4	6.7
理系		10.8	35.1	5.4	16.2	-	10.8

□ 外国人留学生_留学生全体

		(%)										
	n	日本企業は従業員を大切に する	日本のビジネススタイルなど 学ぶところがある	日本企業の技術や 製品・商品力が高い	日本企業のブランド イメージが良い	賃金水準 が高い	研修など 人材育成 を行っている	終身雇用 で雇用が 安定して いる	母国に日 本企業が 進出して いる・進出 予定	学校で学 んだ専門 性を活か せる	語学力を 活かした 仕事ので きる	
留学生全体	245	28.6	39.6	42.0	28.2	31.0	33.5	21.2	20.8	14.3	24.5	
文系	141	22.0	38.3	36.2	24.8	33.3	25.5	21.3	17.0	10.6	24.1	
理系	104	37.5	41.3	50.0	32.7	27.9	44.2	21.2	26.0	19.2	25.0	

	n	日本人とは仕事 がしやすそう	日本へ留 学したこ とで働きた いと思っ た	大学等 の先生に 日本での 就職を勧 められた	母国での 就職が難 しい	日本以外 で働きた くない	その他
留学生全体		5.3	21.6	6.5	11.8	2.4	0.4
文系		4.3	21.3	4.3	11.3	3.5	-
理系		6.7	22.1	9.6	12.5	1.0	1.0

次ページへ続く

「外国人留学生・就業者の就職活動に関する調査」

5) 日本で働きたい理由

前ページより続き

■ 日本で働きたい理由(複数回答)

□ 外国人留学生_大学生

		(%)									
	n	日本企業は従業員を大切に する	日本のビジネススタイルなど 学ぶところがある	日本企業の技術や 製品・商品力が高い	日本企業のブランド イメージが良い	賃金水準が高い	研修など人材育成 を行っている	終身雇用で雇用が 安定している	母国に日本企業が 進出している・進出 予定	学校で学んだ専門 性を活かせる	語学力を活かした 仕事ができる
大学生	129	28.7	30.2	40.3	29.5	26.4	24.8	21.7	20.2	14.7	27.9
文系	82	26.8	31.7	39.0	25.6	25.6	19.5	22.0	22.0	11.0	24.4
理系	47	31.9	27.7	42.6	36.2	27.7	34.0	21.3	17.0	21.3	34.0

		日本人とは仕事が しやすい	日本へ留学したこと で働きたいと思った	大学等の先生に日本での就 職を勧められた	母国での就職が難 しい	日本以外で働きた くない	その他
大学生		9.3	17.8	7.0	13.2	1.6	-
文系		7.3	19.5	3.7	13.4	2.4	-
理系		12.8	14.9	12.8	12.8	-	-

□ 外国人留学生_大学院生

		(%)									
	n	日本企業は従業員を大切に する	日本のビジネススタイルなど 学ぶところがある	日本企業の技術や 製品・商品力が高い	日本企業のブランド イメージが良い	賃金水準が高い	研修など人材育成 を行っている	終身雇用で雇用が 安定している	母国に日本企業が 進出している・進出 予定	学校で学んだ専門 性を活かせる	語学力を活かした 仕事ができる
大学院生	116	28.4	50.0	44.0	26.7	36.2	43.1	20.7	21.6	13.8	20.7
文系	59	15.3	47.5	32.2	23.7	44.1	33.9	20.3	10.2	10.2	23.7
理系	57	42.1	52.6	56.1	29.8	28.1	52.6	21.1	33.3	17.5	17.5

		日本人とは仕事が しやすい	日本へ留学したこと で働きたいと思った	大学等の先生に日本での就 職を勧められた	母国での就職が難 しい	日本以外で働きた くない	その他
大学院生		0.9	25.9	6.0	10.3	3.4	0.9
文系		-	23.7	5.1	8.5	5.1	-
理系		1.8	28.1	7.0	12.3	1.8	1.8

「外国人留学生・就業者の就職活動に関する調査」

6) 日本で働きたい期間

元留学生（就業者）の【就職活動時点】、留学生の【現時点】で、日本で「働きたかった/働きたい」「どちらかという働きたかった/働きたい」と回答者に、日本で働きたい期間を聞いた。

元留学生は、「10年以上」が最も多く、次いで「5～9年」である。平均は、7.70年（約7年8ヶ月）。

留学生は、「3～4年」が最も多いが、「5～9年」「10年以上」もほぼ同じ数値となっている。平均は、7.48年（約7年6ヶ月）。

元留学生、留学生ともに、「1年未満」が一人もいなかった。

■ 就職活動時に日本で働きたいと思っていた期間(実数回答)_元外国人留学生(就業者)

		(%)					
	n	1年未満	1～3年未満	3～4年	5～9年	10年以上	平均(年)
就業者全体	82	-	12.2	24.4	28.0	35.4	7.70
大学卒	35	-	11.4	17.1	40.0	31.4	8.71
大学院卒	47	-	12.8	29.8	19.1	38.3	6.94
文系	45	-	15.6	17.8	22.2	44.4	8.91
理系	37	-	8.1	32.4	35.1	24.3	6.22

■ 現時点での日本で働きたいと思っている期間(実数回答)_外国人留学生

		(%)					
	n	1年未満	1～3年未満	3～4年	5～9年	10年以上	平均(年)
留学生全体	245	-	8.2	31.0	30.2	30.6	7.48
文系	141	-	9.9	34.0	29.8	26.2	7.40
理系	104	-	5.8	26.9	30.8	36.5	7.58
大学生	129	-	8.5	37.2	27.9	26.4	7.36
文系	82	-	12.2	37.8	28.0	22.0	7.37
理系	47	-	2.1	36.2	27.7	34.0	7.34
大学院生	116	-	7.8	24.1	32.8	35.3	7.61
文系	59	-	6.8	28.8	32.2	32.2	7.46
理系	57	-	8.8	19.3	33.3	38.6	7.77

7) 外国人留学生の就職活動に関する所属大学・大学院の支援内容

外国人留学生の就職活動に関して、所属大学・大学院にて、支援があった内容を聞いた。

元留学生（就業者）では、「就職ガイダンス（全学生対象）」が最も多く、「キャリアセンター（就職活動に関する情報提供）」「留学生・国際交流センター課など」が続いている。

留学生では、元留学生同様に「就職ガイダンス（全学生対象）」が最も多く、「就職ガイダンス（バイリンガル、外国人留学生向け）」「キャリアセンター（就職活動に関する情報提供）」が続いている。

留学生が求める就職活動に関する支援内容について、声が多く挙がったのは「エントリーシートの書き方や添削」「外国人向けの就職活動に関する講座」だが、「就職活動の流れを説明してほしい」といった要望も聞かれる。

■ 卒業/修了した大学・大学院にあった就職活動に関する支援(複数回答) _元外国人留学生(就業者)

(%)

	n	就職ガイ ダンス(全 学生対 象)	就職ガイ ダンス(バ イリンガ ル、外国 人留學生 向け)	就職活動 に対する 講座(エン トリーシ ートの書 き方 など)	キャリアセ ンター(就 職活動に 関する情 報提供)	留学生・ 国際交流 センター 課など	キャリアセ ンターや 留学生セ ンターな どでの就 職先 の紹介	チューター 制度	相談窓口	その他	わから ない	特にな かった
就業者全体	100	55.0	37.0	32.0	44.0	44.0	17.0	11.0	25.0	1.0	1.0	6.0
大学卒	44	52.3	31.8	31.8	36.4	40.9	13.6	6.8	27.3	-	-	2.3
大学院卒	56	57.1	41.1	32.1	50.0	46.4	19.6	14.3	23.2	1.8	1.8	8.9
文系	59	57.6	33.9	27.1	49.2	39.0	16.9	11.9	23.7	-	-	8.5
理系	41	51.2	41.5	39.0	36.6	51.2	17.1	9.8	26.8	2.4	2.4	2.4

※「チューター制度」=留学生の就職活動を含めた学習・生活面のサポートを学生や大学職員等が行う制度

■ 在籍している大学・大学院にある就職活動に関する支援(複数回答) _外国人留学生

(%)

	n	就職ガイ ダンス(全 学生対 象)	就職ガイ ダンス(バ イリンガ ル、外国 人留學生 向け)	就職活動 に対する 講座(エン トリーシ ートの書 き方 など)	キャリアセ ンター(就 職活動に 関する情 報提供)	留学生・ 国際交流 センター 課など	キャリアセ ンターや 留学生セ ンターな どでの就 職先 の紹介	チューター 制度	相談窓口	その他	わから ない	特にな かった
留学生全体	286	65.4	48.6	29.7	44.1	41.6	23.1	5.6	21.0	-	2.1	0.7
文系	156	67.3	46.2	32.7	42.3	36.5	19.9	5.1	22.4	-	1.9	-
理系	130	63.1	51.5	26.2	46.2	47.7	26.9	6.2	19.2	-	2.3	1.5
大学生	146	66.4	42.5	28.8	49.3	42.5	24.7	4.1	25.3	-	0.7	0.7
文系	90	68.9	43.3	36.7	44.4	41.1	21.1	4.4	27.8	-	1.1	-
理系	56	62.5	41.1	16.1	57.1	44.6	30.4	3.6	21.4	-	-	1.8
大学院生	140	64.3	55.0	30.7	38.6	40.7	21.4	7.1	16.4	-	3.6	0.7
文系	66	65.2	50.0	27.3	39.4	30.3	18.2	6.1	15.2	-	3.0	-
理系	74	63.5	59.5	33.8	37.8	50.0	24.3	8.1	17.6	-	4.1	1.4

■ 日本での就職活動時に要望する支援について (自由回答)

- エントリーシートの書き方、添削
 - ・志望動機や志望理由の指導や添削など
- OSPI試験、WEB試験などの指導
 - ・できれば日本以外もあるとよい、など
- 模擬面接、面接練習・指導
 - ・外国人ならではのアピールの仕方、など
- ビジネスマナーや基礎的なマナー
 - ・敬語の使い方、言いまわし
- 英語や母国語での指導や説明
- 個別指導や相談
- 就職活動の流れ、就職活動の内容についての説明
 - ・グループや個人面接の種類、日本と他国の違い、など
- 外国人向けの就職活動に関する講座
- OOB・OGとの交流
 - ・経験者の話、母国の先輩、など
- 外国人採用企業の紹介
 - ・外国人を受け入れてくれる企業の特徴など
- 日本企業の特徴、外国人在籍数がわかるもの

「外国人留学生・就業者の就職活動に関する調査」

8) 外国人留学生が日本での就職活動時に困ったこと

日本での就職活動時に、困ったことがあったかどうかについて聞いた。

元留学生（就業者）では、約7割があったと答えている。

現在就職活動の該当学年である留学生は、約3割が「まだわからない」と答えているが、4割以上は「ある」と答えている。

困ったことについては、「エントリーシートを書くのが難しい」「どのような職業に向いているかわからない」といった、日本人学生からも聞かれるものや、「日本の就職活動がよくわからない」「就職活動期間が長い」といったものも見られる。また、「行きたい会社が、外国人を採用するかどうか不明」や「外国人は採用しない」といったものも見られる。

■ 日本での就職活動時に困ったことの有無(単一回答)

□ 元外国人留学生(就業者)

	n	(%)	
		あった	なかった
就業者全体	100	69.0	31.0
大学卒	44	65.9	34.1
大学院卒	56	71.4	28.6
文系	59	74.6	25.4
理系	41	61.0	39.0

□ 外国人留学生

	n	(%)		
		ある	ない	まだわからない
留学生全体	286	43.4	26.6	30.1
文系	156	45.5	24.4	30.1
理系	130	40.8	29.2	30.0
大学生	146	30.8	42.5	26.7
文系	90	35.6	38.9	25.6
理系	56	23.2	48.2	28.6
大学院生	140	56.4	10.0	33.6
文系	66	59.1	4.5	36.4
理系	74	54.1	14.9	31.1

■ 日本での就職活動時に困ったことの内容(自由回答)

□ 元外国人留学生(就業者)

- 日本の就職活動というものがよくわからなかった
- エントリーシートや履歴書の書き方に困った
- 筆記試験やSPI試験が難しかった
- 高い日本語力が必要だった
- 日本語のレベルが足りないため、面接時に自己アピールできなかった
- 面接対策が必要だった
- 年齢が周りよりも上で、しかも外国人なので、面接でかなり落ちた
- 面接後の結果を教えてくれなかった
- 就職活動期間が長かった
- 日本語の敬語等の使い方
- 外国人だから、ダメとよく言われた
- 行きたい会社が、外国人を採用するかわからなかった
- そもそも外国籍学生を採用しない、もしくは、グローバル人材採用を宣言する企業の中でも、特定の国や地域を最初から絞っていたと思われる企業が多数あった。言語の問題もあり、日本人学生と違う扱いをされたと感じ、自分にとって就職活動自体がとても辛い経験だった

□ 外国人留学生

- WebテストやSPIが難しい
- エントリーシートを書くことが難しい
- 先に何をするのか、何からしたらよいのかわからない
- 説明会や面接などに行く交通費が高い
- 面接担当者より、厳しい言葉を言われた
- 面接担当者が厳しく、フォーマットの質問をするので、自己表現が硬くなる
- グループディスカッションなどで、見られるポイントがよくわからない
- 自分がどのような職業に向いているか、わからない
- 学校に何の支援もないので困っている
- 年齢制限や外国人NGのところがある
- 日本社会の暗黙のルールがわからない
- 日本の企業は、外国人が日本で就職することをどう考えているか、不安を感じる
- 日本文化や日本社会になじめない
- 日本語が上手く話せない

「外国人留学生・就業者の就職活動に関する調査」

9) 日本での就職活動において、障害や不利となったこと

日本での就職活動において、障害や不利となったことを聞いた。

元留学生（就業者）は、「外国人留学生に対する求人数が少なかった」「日本人学生と比べて日本語能力に差があった」「外国人留学生を採用する企業が少なかった」が上位3項目となっている。

文理別に上位3項目を見ると、文系は「外国人留学生に対する求人数が少なかった」「外国人留学生を採用する企業が少なかった」「日本人学生と比べて日本語能力に差があった」で、理系は「日本人学生と比べて日本語能力に差があった」「外国人留学生を採用する企業が少なかった」、同率で「企業が外国人留学生に求める日本語能力のレベルが高すぎた」「SPIなどの日本独自の筆記試験が難しかった」となっている。

留学生は、「外国人留学生に対する求人数が少ない」「外国人留学生を採用する企業が少ない」「企業が外国人に求める日本語能力レベルが高い」が上位3項目となっている。

文理別を見ると、文系は、「外国人留学生に対する求人数が少ない」「外国人留学生を採用する企業が少ない」「日本人学生と比べて日本語能力に差がある」が上位3項目で、理系は「外国人留学生に対する求人数が少ない」「外国人留学生を採用する企業が少くない」「企業が外国人留学生に求める日本語能力のレベルが高い」となっている。

■ 日本での就職活動時において、障害や不利となったこと(複数回答)

□ 元外国人留学生(就業者)

(%)

	n	日本企業への就職に関する情報が少なかった	外国人留学生に対する求人数が少なかった	外国人留学生を採用する企業が少なかった	外国人留学生の採用枠がなかった	企業が外国人留学生に求める日本語能力のレベルが高すぎた	企業の募集職種・職種と外国人留学生の希望職種・職種とが合わなかった	卒業年などの応募資格があったところが多かった	日本の就職活動の仕組みがよくわからなかった	SPIなどの日本独自の筆記試験が難しかった	日本人学生と比べて日本語能力に差があった	その他	特になかった
就業者全体	100	22.0	53.0	51.0	23.0	44.0	26.0	19.0	17.0	46.0	53.0	4.0	3.0
大学卒	44	18.2	47.7	50.0	27.3	40.9	25.0	18.2	11.4	36.4	47.7	6.8	2.3
大学院卒	56	25.0	57.1	51.8	19.6	46.4	26.8	19.6	21.4	53.6	57.1	1.8	3.6
文系	59	27.1	55.9	49.2	20.3	39.0	32.2	22.0	20.3	42.4	49.2	5.1	5.1
理系	41	14.6	48.8	53.7	26.8	51.2	17.1	14.6	12.2	51.2	58.5	2.4	-

□ 外国人留学生

(%)

	n	日本企業への就職に関する情報が少ない	外国人留学生に対する求人数が少ない	外国人留学生を採用する企業が少ない	外国人留学生の採用枠がない	企業が外国人留学生に求める日本語能力のレベルが高い	企業の募集職種・職種と外国人留学生の希望職種・職種とが合わない	卒業年などの応募資格が多い	日本の就職活動の仕組みがよくわからない	SPIなどの日本独自の筆記試験が難しい	日本人学生と比べて日本語能力に差がある	その他	まだわからない	特にない
留学生全体	286	31.1	51.7	43.0	27.6	37.8	19.9	12.9	17.5	28.3	35.3	0.7	3.1	2.4
文系	156	30.8	50.6	43.6	30.8	35.3	19.9	13.5	17.3	32.7	40.4	-	2.6	0.6
理系	130	31.5	53.1	42.3	23.8	40.8	20.0	12.3	17.7	23.1	29.2	1.5	3.8	4.6
大学生	146	29.5	45.9	39.0	26.7	30.8	19.9	11.0	13.7	24.7	28.8	0.7	4.8	2.7
文系	90	30.0	45.6	41.1	27.8	32.2	17.8	10.0	13.3	28.9	34.4	-	4.4	1.1
理系	56	28.6	46.4	35.7	25.0	28.6	23.2	12.5	14.3	17.9	19.6	1.8	5.4	5.4
大学院生	140	32.9	57.9	47.1	28.6	45.0	20.0	15.0	21.4	32.1	42.1	0.7	1.4	2.1
文系	66	31.8	57.6	47.0	34.8	39.4	22.7	18.2	22.7	37.9	48.5	-	-	-
理系	74	33.8	58.1	47.3	23.0	50.0	17.6	12.2	20.3	27.0	36.5	1.4	2.7	4.1

10) 「外国人」ならではの強み・弱みだと思ふこと

「外国人」ならではの強み・弱みについて聞いた。

「強み」は、「自己主張をはっきり言う」「曖昧な言い方をしない」や「2か国語以上話ができる」などの語学、また、「異文化の理解」「海外経験があるので、異文化への対応力がある」などが見られる。

「弱み」は、「日本語」が多数見られるが、そのなかで「敬語の使い方」や「外来語（カタカナ語）がよくわからない」といったものも見られる。また、「日本文化の理解」「日本社会のルール」「日本人の中に入っていくにくい」も見られる。これらは、「強み」でもあり、同時に「弱み」となっている。

■「外国人」ならではの強みや弱みと思ふこと(自由回答)

□ 強み

- 自己主張をはっきり言う
- 曖昧な言い方をしない
- 考え方が、日本の従来の考え方と、違う点がある
- 日本人にはない考え、見方ができる
- 語学や言語力（母国語、英語、など）
 - ・ 2か国以上話ができる
- 異文化の理解
- 日本文化の理解
- 国際的な視野、国際面を持っている
- 海外経験があるので、異文化への対応力がある
- 細かいところにこだわらない
- 日本人よりも柔軟な考え方ができる
- 母国などの現地で活躍できる
- 国際人材であること

□ 弱み

- 日本語 ※大多数
 - ・ 日本語の敬語の使い方
 - ・ 外来語（カタカナ語）がよくわからない
- 日本文化の理解
- 日本文化に慣れない
- 日本社会のルール
- 日本社会の認識が足りない
- 日本人の考え方が不足
- 日本人の中に入っていくにくい
- 文化の違い
- 「あうん」がよくわからない
- 日本人に比べて、正確性に不足
- チーム戦が弱い
- 仕事以外の同僚との付き合いにストレスを感じ、職場で孤立する

11) 外国人留学生在日本で就職する際、日本企業の取り組みとして良いと思うもの

日本で就職する際、長く働けたり活躍できたりするために、日本企業はどのような取り組みをした方が良いかを聞いた。

元留学生（就業者）は、「外国人の特性や語学力を活かした配置・育成をする」が最も多く、「日本企業や日本社員が異文化への理解度を高める」「外国人社員に考慮した休みを取れるようにする」が続いている。

留学生は、「日本企業や日本社員が異文化への理解度を高める」が最も多く、「外国人の特性や語学力を活かした配置・育成をする」「勤務時間に関わらずキャリア形成できるような多様なキャリアコースを用意する」が続いている。

■ 日本で就職する際、長く働けたり活躍できたりするような、日本企業の取り組みとして良いと思うもの（複数回答）

□ 元外国人留学生（就業者）

(%)

	n	日本企業や日本社員が異文化への理解度を高める	勤務期間に関わらずキャリア形成できるような多様なキャリアコースを用意する	外国人の特性や語学力を活かした配置・育成をする	学校で学んだ専門性を活かした配置・育成をする	職務分担を明確にする	個人業績や成果を重視した評価・処遇制度を構築する	外国人社員向けの研修を実施する(ビジネスに必要な日本語教育など)	生活面も含めて相談できる体制を社内に整備する(上司・先輩が丁寧に仕事をサポートするなど)	労働時間を短くして仕事と私生活を両立できるようにする	外国人社員に考慮した休みを取れるようにする	その他	特にない
就業者全体	100	53.0	41.0	63.0	25.0	30.0	34.0	45.0	29.0	42.0	49.0	1.0	6.0
大学卒	44	47.7	40.9	61.4	22.7	25.0	27.3	36.4	25.0	45.5	45.5	2.3	4.5
大学院卒	56	57.1	41.1	64.3	26.8	33.9	39.3	51.8	32.1	39.3	51.8	-	7.1
文系	59	54.2	40.7	62.7	27.1	30.5	30.5	40.7	23.7	35.6	47.5	1.7	6.8
理系	41	51.2	41.5	63.4	22.0	29.3	39.0	51.2	36.6	51.2	51.2	-	4.9

□ 外国人留学生

(%)

	n	日本企業や日本社員が異文化への理解度を高める	勤務期間に関わらずキャリア形成できるような多様なキャリアコースを用意する	外国人の特性や語学力を活かした配置・育成をする	学校で学んだ専門性を活かした配置・育成をする	職務分担を明確にする	個人業績や成果を重視した評価・処遇制度を構築する	外国人社員向けの研修を実施する(ビジネスに必要な日本語教育など)	生活面も含めて相談できる体制を社内に整備する(上司・先輩が丁寧に仕事をサポートするなど)	労働時間を短くして仕事と私生活を両立できるようにする	外国人社員に考慮した休みを取れるようにする	その他	特にない
留学生全体	286	50.3	37.4	47.6	25.2	26.6	18.5	35.7	22.7	25.9	22.0	1.4	1.4
文系	156	48.7	32.7	50.6	23.1	26.3	16.7	30.8	23.1	23.1	21.8	1.3	1.3
理系	130	52.3	43.1	43.8	27.7	26.9	20.8	41.5	22.3	29.2	22.3	1.5	1.5
大学生	146	43.8	31.5	44.5	22.6	26.7	19.9	32.2	17.8	22.6	21.2	-	2.1
文系	90	44.4	33.3	48.9	23.3	26.7	14.4	28.9	18.9	21.1	20.0	-	2.2
理系	56	42.9	28.6	37.5	21.4	26.8	28.6	37.5	16.1	25.0	23.2	-	1.8
大学院生	140	57.1	43.6	50.7	27.9	26.4	17.1	39.3	27.9	29.3	22.9	2.9	0.7
文系	66	54.5	31.8	53.0	22.7	25.8	19.7	33.3	28.8	25.8	24.2	3.0	-
理系	74	59.5	54.1	48.6	32.4	27.0	14.9	44.6	27.0	32.4	21.6	2.7	1.4

12) 卒業後の進路を考える上で、影響を与えたもの

卒業後の進路を考える上で、影響を与えたものを聞いた。

元留学生（就業者）では、「就職活動」が最も多く、「友人」「親」と続いている。

文理別に見ると、文理ともに「就職活動」が最も多く、「友人」「親」と続くが、理系は「大学・学校の先生」も多くなっている。

留学生は、「親」が最も多く、「友人」「大学・学校の先生」と続いている。

文理別に見ると、文系は、「親」「友人」「就職活動」、理系は、「親」「友人」「大学・学校の先生」となっている。

■ 卒業後の進路を考える上で、影響を与えたもの(複数回答)

□ 就業者(元外国人留学生)

	n	親	兄弟姉妹・親戚	大学・学校の先生	友人	先輩	大学受験	大学・学校の部活動、クラブ・サークル活動	就職活動	インターンシップなどの就業経験	学外での社会活動・スポーツ活動	書籍	その他
就業者全体	100	30.0	11.0	22.0	37.0	27.0	5.0	2.0	43.0	23.0	7.0	8.0	7.0
大学卒	44	29.5	2.3	15.9	29.5	15.9	9.1	2.3	36.4	20.5	6.8	6.8	4.5
大学院卒	56	30.4	17.9	26.8	42.9	35.7	1.8	1.8	48.2	25.0	7.1	8.9	8.9
文系	59	30.5	15.3	16.9	33.9	27.1	1.7	1.7	42.4	28.8	5.1	10.2	6.8
理系	41	29.3	4.9	29.3	41.5	26.8	9.8	2.4	43.9	14.6	9.8	4.9	7.3

□ 外国人留学生

	n	親	兄弟姉妹・親戚	大学・学校の先生	友人	先輩	大学受験	大学・学校の部活動、クラブ・サークル活動	就職活動	インターンシップなどの就業経験	学外での社会活動・スポーツ活動	書籍	その他
留学生全体	286	44.8	15.7	32.2	37.1	28.3	10.5	10.5	30.8	19.6	7.3	5.6	2.8
文系	156	42.3	15.4	30.8	37.8	26.3	8.3	10.3	34.6	18.6	9.6	7.7	3.2
理系	130	47.7	16.2	33.8	36.2	30.8	13.1	10.8	26.2	20.8	4.6	3.1	2.3
大学	146	43.8	14.4	33.6	39.0	24.7	13.0	15.1	32.2	16.4	6.8	3.4	2.7
文系	90	40.0	14.4	33.3	37.8	18.9	12.2	12.2	34.4	15.6	8.9	5.6	4.4
理系	56	50.0	14.3	33.9	41.1	33.9	14.3	19.6	28.6	17.9	3.6	-	-
大学院	140	45.7	17.1	30.7	35.0	32.1	7.9	5.7	29.3	22.9	7.9	7.9	2.9
文系	66	45.5	16.7	27.3	37.9	36.4	3.0	7.6	34.8	22.7	10.6	10.6	1.5
理系	74	45.9	17.6	33.8	32.4	28.4	12.2	4.1	24.3	23.0	5.4	5.4	4.1

参考)世界13カ国 20~30代大卒者 「Global Career Survey」リクルートワークス研究所

	n	親	兄弟姉妹・親戚	大学・学校の先生	友人	大学受験	大学・学校の講義・授業	海外留学・海外生活	大学・学校の部活動、クラブ・サークル活動	就職活動	ビジネス経験、インターンシップなどの就業経験	学外での社会活動・スポーツ活動	書籍	その他
中国	518	62.4	17.8	38.8	55.6	6.8	26.8	5.6	18.0	54.4	52.9	19.9	20.1	3.3
韓国	562	45.0	15.8	30.1	31.9	9.4	19.4	6.9	11.0	26.9	23.5	11.6	9.8	12.1
インド	483	54.9	23.2	35.2	47.8	18.2	16.8	11.0	16.4	35.4	17.4	9.5	8.1	5.6
タイ	501	40.3	15.6	13.8	24.4	20.4	7.8	3.0	6.0	14.8	33.5	5.6	6.0	14.4
マレーシア	471	42.3	20.0	24.8	37.4	5.7	15.9	4.0	7.4	38.2	22.9	6.6	10.8	14.2
インドネシア	485	46.6	26.0	17.9	38.1	8.5	24.5	6.6	9.5	41.6	30.5	10.1	15.9	10.3
ベトナム	549	49.7	23.1	16.9	33.2	17.1	11.7	2.4	8.9	41.7	26.2	10.9	28.6	10.7
アメリカ	496	35.9	13.1	26.2	25.8	8.3	15.3	6.7	10.3	26.4	22.0	6.0	3.4	18.1
ブラジル	463	22.9	9.5	19.4	17.3	6.3	14.7	5.0	4.1	19.4	38.7	7.1	12.7	17.5
ドイツ	535	38.3	9.3	19.6	27.1	6.0	17.9	7.9	5.4	27.5	35.5	6.4	5.2	18.7
ロシア	496	39.5	7.1	14.9	19.8	10.1	13.9	2.4	4.6	33.1	19.4	4.2	5.2	13.9
オーストラリア	514	41.6	13.4	26.5	29.4	7.8	13.6	8.8	5.1	31.9	17.3	6.2	4.1	14.4
日本	600	29.2	7.2	9.5	9.5	1.0	8.8	3.0	5.2	35.5	5.3	4.7	5.3	25.8

「外国人留学生・就業者の就職活動に関する調査」

13) 日本語能力について

元留学生（就業者）へ【就職活動時（以下、活動時）】と【現在】においての、日本語能力について聞いた。

【活動時】では「日本語の読み書きが十分にできた（日本語能力試験1級程度）」が最も多く、【現在】でも同じであるが、【活動時】よりも【現在】の方が、「母国語と同じくらい日本ができる」が多くなっている。

留学生へ【留学当時】と【現在】においての、日本語能力について聞いた。

【留学当時】では、「日本語はほとんどできなかった」が4人に1人の割合であったが、【現在】ではほとんどいない。また、【留学当時】では1割にも満たなかった「母国語と同じくらい日本語ができた」が、【現在】では4人に1人の割合となっている。

文理別に見ると、理系の方が「日本語はほとんどできなかった」が多かったが、【現在】では2%台となっている。

■ 就職活動時と現在における日本語能力(単一回答)_元外国人留学生(就業者)

(%)

	n	母国語と同じくらい日本語ができた/できる	日本語の読み書きが十分にできた/できる(日本語能力試験1級程度)	日本語の読み書きがある程度できた/できる(日本語能力試験2~3級程度)	読み書きはあまりできないが、日常会話には不自由しなかった/しない	読み書きはあまりできないが、日常会話は多少できた/できる	日本語はほとんどできなかった/できる
「就職活動時」	100	6.0	52.0	26.0	7.0	7.0	2.0
大学卒	44	9.1	47.7	27.3	6.8	6.8	2.3
大学院卒	56	3.6	55.4	25.0	7.1	7.1	1.8
文系	59	5.1	57.6	27.1	3.4	6.8	-
理系	41	7.3	43.9	24.4	12.2	7.3	4.9
「現在」	100	22.0	51.0	20.0	2.0	4.0	1.0
大学卒	44	25.0	50.0	18.2	2.3	2.3	2.3
大学院卒	56	19.6	51.8	21.4	1.8	5.4	-
文系	59	20.3	61.0	11.9	1.7	5.1	-
理系	41	24.4	36.6	31.7	2.4	2.4	2.4

■ 留学当時と現在における日本語能力(単一回答)_外国人留学生

(%)

	n	母国語と同じくらい日本語ができた/できる	日本語の読み書きが十分にできた/できる(日本語能力試験1級程度)	日本語の読み書きがある程度できた/できる(日本語能力試験2~3級程度)	読み書きはあまりできないが、日常会話には不自由しなかった/しない	読み書きはあまりできないが、日常会話は多少できた/できる	日本語はほとんどできなかった/できる
留学生全体							
「留学当時」	286	5.9	19.2	25.5	11.9	12.6	24.8
文系	156	7.7	26.9	25.6	8.3	12.8	18.6
理系	130	3.8	10.0	25.4	16.2	12.3	32.3
「現在」	286	23.4	40.9	23.4	4.9	6.3	1.0
文系	156	30.8	44.2	19.9	1.9	3.2	-
理系	130	14.6	36.9	27.7	8.5	10.0	2.3
大学生							
「留学当時」	146	8.9	17.1	25.3	13.7	12.3	22.6
文系	90	11.1	22.2	24.4	10.0	8.9	23.3
理系	56	5.4	8.9	26.8	19.6	17.9	21.4
「現在」	146	29.5	44.5	25.3	-	0.7	-
文系	90	33.3	44.4	21.1	-	1.1	-
理系	56	23.2	44.6	32.1	-	-	-
大学院生							
「留学当時」	140	2.9	21.4	25.7	10.0	12.9	27.1
文系	66	3.0	33.3	27.3	6.1	18.2	12.1
理系	74	2.7	10.8	24.3	13.5	8.1	40.5
「現在」	140	17.1	37.1	21.4	10.0	12.1	2.1
文系	66	27.3	43.9	18.2	4.5	6.1	-
理系	74	8.1	31.1	24.3	14.9	17.6	4.1

「外国人留学生・就業者の就職活動に関する調査」

14) 「就職活動」について、元外国人留学生が感じたこと

日本の大学・大学院を卒業後、日本で就職をした元留学生（就業者）に、日本の就職活動について聞いたところ、母国とのものと、全く違うという声が多く聞かれた。違いについては、「日本の就職活動はプロセスが多くわかりにくい」「自分の好きな時に活動できない」「求められる日本語能力が高い」という声が多く聞かれた。また、日本人学生でも聞かれる「エントリーシート記入の大変さ」「筆記試験等の難しさ」なども挙がった。

一方で、日本式にも良いところがあるという声も聞かれた。「複数内定をもらっても、ゆっくりと考えられる」「外国人と日本人の仕切りがない」、「母国では、明日にでもすぐ仕事をできる人を探るが、日本はポテンシャルを見てくれる」「母国では自由で時期も決まっていないので、日本の就職活動パターンの方が良いのでは」といったものだった。

■ 就職活動全般に関するコメント_日本の大学または大学院卒業/修了後、日本での就職者

※原則、ヒアリング者の言葉を使用。ただし、意味合いを変えずに言葉を補ったり、表現の一部を修正
※カッコ内は、次の通り（現在就業先の業種/学歴/出身地域）

○日本の就職活動は、母国とは全然違う。日本は悪い点も良い点もあるが、良い点は、内定の制度。内定は面白いと思う。なぜならば、内定は会社からの保証だから。4つも内定をもらったら、ゆっくり考えても大丈夫。母国では、逆の問題。たぶんみんな仕事が欲しい。だから契約書にサインをするが、その後は絶対に逃げられない。

他に面白いと思うのは、皆同じ服を着ている。日本の就活イメージは、動物みたく。同じ服を着て、同じ場所に向けて仕事を探す。自分の特徴を出したいと言っても同じ服で同じ服装は、ちょっと逆の感じがする。

日本は成績はあまり重要ではなく、母国は成績が重要。日本は、面接のときにやる気がはっきり伝えられるのならたぶんチャンスがあると思う。成績にもとづいて会社員を決めるのは、たぶん変だと思う。

だめなところは、外国人の観点。グループディスカッションがあったら、本当に伝えたいことが伝えられない。ミスが怖い。敬語も話せない。英語や中国語でのディスカッションであればいい。

外国人には、日本語のグループディスカッションは止めた方がいい。

（流通業/大学院修了/アジア）

○日本の就職活動のシステムは、すぐくルールが多いので、日本の友達と、一緒にやらないと、たぶんわからないと思う。体験するのはいいけど、一回でいい。たとえば、いいスーツとか、いい写真とかいろんなものが必要。それは母国ではルールがない。たぶん日本は、就活しないと働くことに対しての必要なものを全然覚えなない。

本当に就活する外国人は少ないと思う。私の友達は、大学院を修了したら大体自分の国に帰った。

日本は、たとえば、大きい会社に入りたいときは、いい大学に入れなかったら、たぶん入れないからちょっときついなと思う。

卒業後に入社した会社の面接は、最初は英語で、3回、4回目のときは、日本語だった。面接では、英語も使いながらという風な説明をされて国際的な会社と思ったけど、入った後は、9割くらい日本語で話した。

日本語が使えないと、全然仕事ができない。なので、転職した。

（サービス・情報業/大学院修了/北米）

○日本の就職活動の仕組みについて、今の形だと、とんでもないと思う。プロセスが多すぎる。全世界と違って、卒業前に就職活動をする。全世界では、卒業証明書を提示しないと話にならない。卒業後だと、大学時代に勉強とかに集中できる。2・3カ月、同時に会社の選考プロセスをやっているから、受たい会社がいくらあっても、すぐに受けられる訳ではなく不便。大学院時代の友達は全員日本人で、2年で最初の仕事を辞めて転職した。日本の就職活動に、何か問題があるのではないかなと思う。

エントリーシートは書いたけど、楽しくなかった。

友達にプロフィールを見せてもらったら、みな同じことを書いているから、特に悪くなかったと思う。

母国では、資料を送るだけで連絡が来るか来ないかだけ。

あと、面接で、圧迫とかいじめ、学生に聞いてはいけないこともあると思うけど、聞いてしまうことは多い。特に、プレッシャーをかけることはよくない。圧迫はもちろんこの国にもあると思うけど、圧迫を受けて、この会社を受たい人は、たぶんいないと思う。会社も、その人に来てほしいと思ったら、面接のときにあまり圧迫をかけない方がいいと思う。

大学（事務所）のサポートは、あまりなかった。ちょっと冷たい態度の人がいたので、あまり役に立たなかった。事務所には、もうちょっと優しい人がいたらよかった。

（サービス・情報業/大学院修了/欧州）

○日本での就職活動は、ちょっとだけしました。でも、途中でちょっと面倒くさいと思ってた。それで説明会への参加とかを止めた。今働いている会社は、大学の留学生のためのリクルーティングフェアで見つけた。面接は、英語で。面接した人は日本人だった。

エントリーシートは、日本語で文章を書かなくてはいけなくてとても大変。たぶん1回くらいしか書いていない。日本語があまり上手くないので、日本語での面接が苦手。エージェントに登録したが、自分の日本語レベルを知っていたと思うけど、高いレベルの日本語が必要な会社を紹介され、受からなかった。

（サービス・情報業/大学院修了/欧州）

次ページへ続く

14)「就職活動」について、元外国人留学生が感じたこと

前ページより続き

■ 就職活動全般に関するコメント__日本の大学または大学院卒業/修了後、日本での就職者

※原則、ヒアリング者の言葉を使用。ただし、意味合いを変えずに言葉を補ったり、表現の一部を修正
 ※カッコ内は、次の通り（現在就業先の業種/学歴/出身地域）

○就職活動は、大学院1年の後半から、まわりがみんな動きはじめて、私もやらないといけないなと思ってはじめて。私たちのときは12月に解禁して、4月から面接とか、そういう時期だったので、12月の寒い時期にスーツを着て説明会をまわったという記憶が残っている。12月からというのは、学校にもスケジュールが掲載されていましたし、まわりの友達からも聞いたと思うので知っていた。学校で、説明会が結構開かれていたので、参加とかもした。
 （サービス・情報業/大学院修了/アジア）

○自分のときの就職活動は、12月に情報がオープン。9月に卒業して、12月から少しずつ説明会などに行き、外国人向けの説明会もたくさん行ったりしました。日本の就職活動は、学校で外国人留学生向けの説明会があったり、先輩から聞いたりしていたので、エントリーシートを書かなければならないと思っていた。でも外国人向けの説明会で、面接があるところは、エントリーシートがないところもあった。

就職活動で大変だったのは、やっぱり面接。面接が不安で私的には一番苦手。自分の強みをアピールするのが苦手な方。面接以外では、どのような会社なのかなど、色々な情報を見なくては行けなく、準備が必要で時間が掛かる。

それはいやではなかったが、大変だった。あと、エントリーシートを書くのも、文法が大変だった。最初は、日本人の友達に頼んで修正してもらったりした。SPIの準備もしたが、日本語が難しかった。

外国人向けのセミナーは、自分の知りたい情報を教えてくれ、外国人学生を採用したいというのがわかるので、精神的に楽だった。あまり外国人留学生を採りたいと思っていない会社だと、応募しても意味がない。

「こういう仕事がしたい」という考えは、特になかったけど、将来、母国とか母国だけじゃなくて色々な国との懸け橋になりたいと思っていたので、海外で活躍できる会社の方が良いと思っていた。「こういう会社がいいな」という条件は、雰囲気的に働きやすく、風通しが良いところ。仕事の内容自体より、誰と一緒に働くかということの方が、自分的に重要。やっぱり毎日一緒に仕事をする人なので、いやな人がいたら大変じゃないかと思った。給料はそこまで悪くなければ良くて、福利厚生も大事。やっぱり休みが多いところも良い。

4月に内定をもらって、もうやりたくないから止めた。

就職活動は、2度とはしたくない。

（製造業/大学卒業/アジア）

○日本の就職活動の仕組みは、結構最初の方から知っていたので、不思議ではなかった。最初に聞いたときは、大学院の1年生とかそんなに早く就職活動がスタートしても、もしかしたら、自分のやりたいこととか、後で変わったらどうするのかなとかと聞いていたけど、結構早い時期からはっきり決めないといけない、という感じはしました。学校で、個人用のカウンセラーもあって、どうしますか、みたいなことを言われた。

就職活動する前、自分の研究をしているときに、他の先生とか、研究に関連した業界にいる偉い方とかに会いに行ったりして、仕事のことなどを聞き、コネクションを作りました。それで、就職することができた。今もそこで働いていて、仕事は楽しいし、研究は結構気に入っているけど、この先、上に行けそうもなく、そんなに大きな会社ではないので、たぶん転職すると思う。

（製造業/大学院修了/北米）

○就職活動は、修士1年生の6月くらいからはじめて、インターンシップとかに行った。その後、12月くらいからまたはじめた。エントリーしたのは、外資系の金融。全滅したので、日本の金融に応募した。

就職をするときに、せっかく国立大学に行ったので、そのブランド力を活用するという気持ちがあった。

専門職を目指して就職したいと思ったけど、結局、総合職で入社した。個人的に、総合職は非効率というところが好きではなく、10年後の自分が見えないところが好きではない。ジョブローテーションがあって、最終的にどこに行くかわからない。基本的に専門職というポジションではないので、入ってから社内就職という感じ。

2・3年間転々と回ると思うけど、せっかく仕事に慣れてきて余裕ができたところ、プラスアルファのところをやってみたいという気持ちになる。でも異動すると、また最初からルールを覚えるプロセスになってしまうと、非効率なので、でも、たぶん何度も人事異動もあり、自分が合うところだったら残れば良いし、そうでなければ辞めれば良いと思ったので、入社した。

（金融業/大学院修了/アジア）

次ページへ続く

14) 就職活動について、元外国人留学生が感じたこと

前ページより続き

■ 就職活動全般に関するコメント_日本の大学または大学院卒業/修了後、日本での就職者、現在大学院在籍者

※原則、ヒアリング者の言葉を使用。ただし、意味合いを変えずに言葉を補ったり、表現の一部を修正
※カッコ内は、次の通り（現在就業先の業種/学歴/出身地域）

○日本での就職を母国と比べると、母国は明日にでもすぐ仕事ができる人を採るが、日本は、ポテンシャルを見てくれる。採って育成する。色んな分野でできるように育成していく（人に合わせた仕事ではなく、業務に合わせる）。新卒学生だと、この方が働きやすいと思し、成長すると思う。

日本の面接スタイルは、「大学で何をやったの」「一番苦労した点は何ですか」とか、そういう経験をもとに人を見るが 母国では、たとえば、資格の点数やインターンシップで何をやったかなど能力しか見ない気がする。その能力がそのポジションに合うものであれば、採るという感じ。あと、外国人と日本人という仕切りがなかったのが良かったと思う。

自分の就職活動は、3社しかエントリーをしていなく、3社しか受けていない。やる気を得るために、合同説明会に参加したが、そこで内定をもらった。母国に帰っていたら、就職がものすごく厳しいと聞いていたので、就職はできなかったと思う。

社名を言って知っているなどの、ネームバリューがある会社で働きたいと思っていたので、働きたい会社や社員満足とかのランキングを見ていた。今の会社をネットで調べたら、結構評価が高かった。周りに社名を言うと、「ああ、あそこね」と知られていたのが良かった。

正直、最初は3年働いて帰る、と思っていたが、今ではもっと働きたいと思っている。

（サービス・情報業/大学卒業/アジア）

○日本の就職活動はパターンがあって、そのパターンに沿えばいい。事前にそのパターンを勉強して情報を収集すれば、できるんじゃないかなと思いますが、母国の方は逆に自由で時期も決まっていなくて、母国の人からすると、逆に日本のパターンの方がいいと言う人が多いかもしれないですね。ただ、リクルーター制度や学校推薦とかの違いがよくわからなかった。

12月から情報収集をはじめて、大学院の博士課程を採ってくれるところに行つて。

まず大学限定の合同説明会があって、そこに行つて、留学生限定の説明会も2回ぐらいやってくれたので、合計3回ぐらい説明会に行きました。だから、もう大学限定で雇ってくれる、更に留学生を雇ってくれるということがわかっていて、更にそこで会社の説明を聞いて、「ここは合いそうだな」とか、「ここを受けてもいいかな」と思うところがわかってきました。大きな合同説明会は、参加しませんでした。合同説明会のときに、実際に仕事をしている人と触れ合える時間がもっとあればいいなと思った。企業の説明は、録画してサイトに載せ、説明会のときまでに聞いて、説明会のときは、質疑応答で質問をしたい。というのも、たくさん質問したいけど、質問する時間が少ない。

元留学生で実際に日本の会社に入っている人に、話を聞きたい。日本人だと、日本人の感覚で教えてくれるが、外国人としてどう見えているのか。日本に長くいる人だと、ある程度、日本の習慣とか常識もわかっている。ショックな経験をして、どうやってそれを乗り越えたのか、先輩から経験を聞いてみたい。

就職活動で一番大変だったのは、企業研究や自己分析。自分ではやりたいことは決まっていたが、会社側から「違うところでもできるのでは？」と言われて。

あと、自分の研究と就職活動の両立が結構難しかった。時間的にどちらにするか、なかなか判断できなかった。

（大学院在籍（理系）製造業に内定/アジア）

15) 「外国人留学生」について、大学側が感じていること

大学のキャリアセンターの職員に、外国人留学生について感じていることを聞いた。

留学生の「日本語力」について、日本語力が向上する留学生は、自ら進んで日本人学生とコミュニケーションを取っている様子がうかがえる。また、日本語力が高い留学生は、比較的就職先が決まっているようだが、日本語力に自信がない留学生では、厳しい状況も見られるとの声も聞かれる。

■ 「外国人留学生」について大学側が感じていること

○日本への留学後、母国へ帰るといふ学生も多い。でもその前に、日本の大企業に入れるのであれば、まず入って、キャリアや職を付けてから帰るといふように考えている。ただし、中堅中小だったら帰ろうか、というケースもある。日本での就職状況は、比較的良い。ただし、そのなかでもちょっと厳しい留学生もいる。積極的に、日本人学生や日本人コミュニティに入って行く留学生は、割と決まりやすい。自分たちの仲間だけでやっていて、日本語があまり上手ではないということからか、日本人と上手にかかわっていない留学生たちは、厳しい感じを受ける。(私立大学)

○外国人留学生向けの就職説明会や就職試験の対策などを始め、企業説明会を実施し、留学生専用の就職支援窓口も設置している。

外国人留学生の日本語について、ビジネス日本語講座を開催しているが、非漢字圏の学生は、日本語検定の3級を取るの大変。言葉の壁については、日本人が壁をつくっている感じもする。

就職活動に関連して、総合職の説明をしているが、結構苦労している。キャリアパスの説明でも、日本人と同じという言い方ではなく、たとえば、「1年目は●●をしてもらう。2年目は●●。3年目は●●」というような説明をし、これをキャリアパスと説明すれば、わかってくれるのではないかと思う。要は、説明の仕方だと思う。(私立大学)

○外国人留学生のなかで、出身が同じ国で固まる様子がうかがえ、同じ出身国で固まるグループとそれ以外の留学生とにわかれる。固まってしまう留学生は、なかなか日本人に溶け込む、それ以外の留学生は、日本人に溶け込み馴染もうとしており、日本語力も高まる。

外国人留学生向けの就職ガイダンスを実施しているが、出身が同じ国の留学生だけのガイダンスを実施した際、とてもくつろいで話をしたりしていたのを見ると、普段、周りに気を遣ったり、また、遠慮しながら生活しているのか、というのを垣間見られた。

固まっている留学生のなかで、就職活動が上手くいかない学生は、そのなかでの仲間に相談もできずに孤立してしまう。何かあれば相談に行ってみるといいよ、と声を掛けてもらうようお願いしても、声を掛けづらいと言われる。そのなかで、日本人の学生が、「お前ならできる、がんばれ、あきらめるな」と言ったようで、嫌ではなかったかと聞くと、「励みになった」とのこと。人によりけりかもしれないが、こういう励ましは、大事だと思った。

就職については、日本で有名ではない企業に入るので、働く意味がないと思っており、中小企業であれば、母国の大手企業に行った方がまだましと思っている。日本の大手企業に入ることが、目的になっている感じも受ける。

学部生と大学院生について、学部生は、外国人だからといって特別扱いされたくないと思っている学生が多いという印象。日本語力もそれなりに自信があり、日本人と対等に戦えると思っている。大学院生の方は、自分たちの日本語力に自信がないため、選考基準を日本人より低くしてもらうという特別扱いをしてもらってでも、何とかして入りたいと思っている印象も受ける。(国立大学)

「外国人留学生」に関連する 参考資料

参考資料 1) 外国人留学数の推移、出身地域別、日本国内地域別留学生数

- 「外国人留学生在籍状況調査結果」独立行政法人 日本学生支援機構より加工

参考資料 2) 外国人留学生の卒業（修了）後の進路状況

- 「外国人留学生進路状況・学位授与状況調査」独立行政法人 日本学生支援機構より大学以上を抜粋し、加工
- 「大卒求人倍率（ワークス大卒求人倍率調査）」リクルートワークス研究所

参考資料 3) 出入国基本計画の変遷

- 「第3次出入国基本計画」「第4次出入国基本計画」「第5次出入国基本計画」法務省より抜粋し、加工

参考資料 4) 「外国人留学生」に関する参考文献

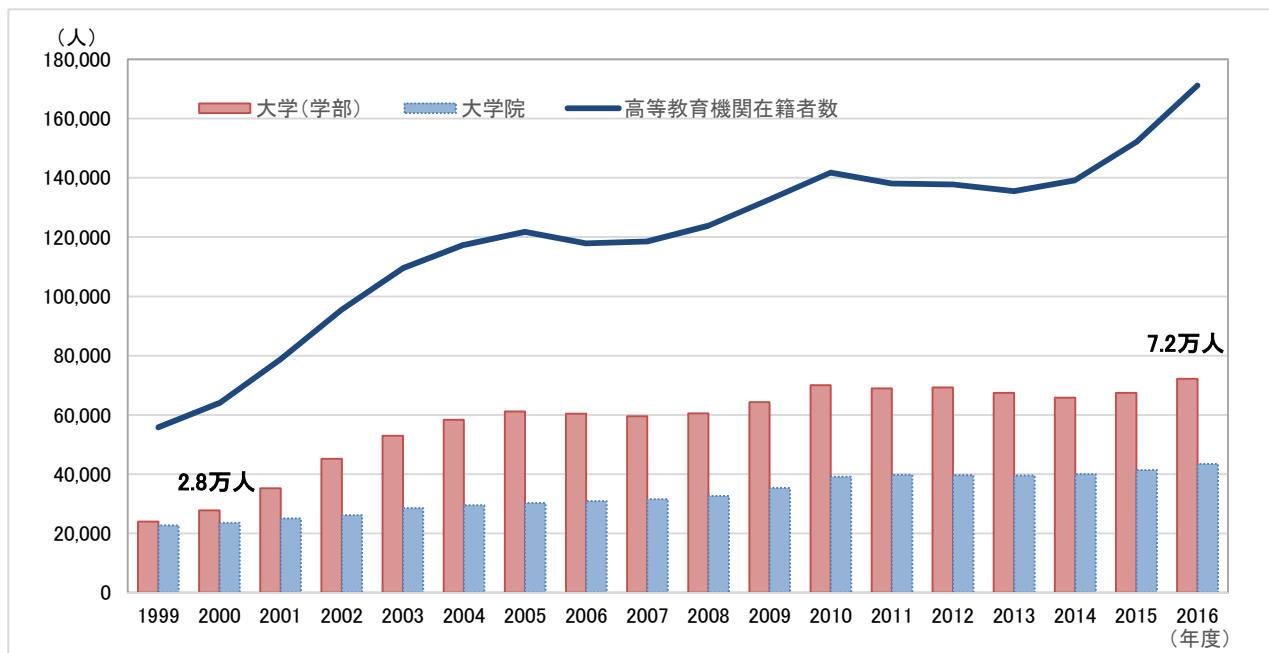
参考資料 1) 外国人留学生数の推移、出身地域別、日本国内地域別留学生数

高等教育機関への外国人留学生数は、年々増加傾向が見られる。大学および大学院別で見ると、2000年は2.8万人であったが、2016年では7.2万人までに増加している。

高等教育機関に在籍している留学生で出身地域を見ると、アジアが9割以上となっている。出身国を見ると、中国が最も多いが、この数年でベトナムからの留学生が増えている。

日本国内の地域別で見ると（次ページ）、関東が最も多く、近畿、九州と続く。

■ 高等教育機関在籍の留学生数推移



■ 出身地域・国別留学生数 ※高等教育機関在籍者

□ 出身地域別留学生数

	(人)			
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
アジア	124,542	127,399	138,930	156,556
欧州	4,753	5,231	5,804	6,466
北米	2,391	2,285	2,521	2,742
中東	1,233	1,366	1,520	1,587
アフリカ	1,155	1,209	1,447	1,857
中南米	946	1,167	1,257	1,293
大洋州	499	528	581	618
その他(無国籍)	0	0	2	3
計	135,519	139,185	152,062	171,122

□ 出身国地域別留学生数_2016年の上位20国(地域)

	(人)			
	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
1 中国	81,884	77,792	74,921	75,262
2 ベトナム	6,290	11,174	20,131	28,579
3 韓国	15,304	13,940	13,397	13,571
4 ネパール	3,188	5,291	8,691	13,456
5 台湾	4,719	4,971	5,610	6,401
6 インドネシア	2,410	2,705	2,995	3,670
7 タイ	2,383	2,676	2,904	3,185
8 マレーシア	2,293	2,361	2,460	2,581
9 米国	2,083	1,975	2,223	2,428
10 ミャンマー	1,193	1,280	1,652	2,079
11 スリランカ	794	902	1,200	1,905
12 モンゴル	1,138	1,222	1,350	1,495
13 バングラデシュ	875	825	1,015	1,402
14 フランス	793	833	964	1,132
15 インド	560	622	773	880
16 ドイツ	599	674	804	836
17 フィリピン	507	546	647	779
18 サウジアラビア	472	562	551	510
19 ロシア	339	404	451	505
20 英国	452	454	426	477

資料出典：「外国人留学生在籍状況調査結果（各年5月1日時点）」独立行政法人 日本学生支援機構 より加工

参考資料 1) 外国人留学生数の推移、出身地域別、日本国内地域別留学生数

■ 日本国内における地域別留学生数 ※高等教育機関在籍者

(人)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
北海道	2,686	2,588	2,725	2,897
東北	3,271	3,580	3,980	4,692
青森	239	276	311	312
岩手	319	308	323	316
宮城	1,848	2,021	2,273	2,816
秋田	372	416	460	456
山形	224	241	239	261
福島	269	318	374	531
関東	63,360	66,658	75,948	86,663
茨城	2,658	3,051	4,426	5,343
栃木	1,158	1,234	1,575	1,830
群馬	1,409	1,590	2,338	4,101
埼玉	5,760	5,499	5,822	6,476
千葉	4,991	5,115	5,475	6,775
東京	42,791	45,280	50,557	55,441
神奈川	4,593	4,889	5,755	6,697
中部	14,477	14,120	14,797	15,986
新潟	1,562	1,618	1,768	2,063
富山	556	529	527	542
石川	1,534	1,504	1,537	1,756
福井	280	307	295	342
山梨	768	734	690	698
長野	780	847	1,004	1,102
岐阜	1,373	1,230	1,278	1,352
静岡	1,410	1,315	1,307	1,393
愛知	6,214	6,036	6,391	6,738
近畿	25,593	25,878	27,593	30,518
三重	898	832	840	865
滋賀	395	391	423	412
京都	7,243	7,470	7,667	8,368
大阪	10,533	10,853	11,916	13,365
兵庫	4,901	4,818	5,332	6,070
奈良	1,303	1,171	1,078	1,080
和歌山	320	343	337	358

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
中国	6,392	6,372	7,139	8,155
鳥取	172	172	188	191
島根	207	205	228	243
岡山	2,029	1,941	2,102	2,442
広島	2,552	2,586	2,789	3,074
山口	1,432	1,468	1,832	2,205
四国	1,329	1,424	1,578	1,599
徳島	322	310	293	328
香川	378	403	442	518
愛媛	450	514	628	530
高知	179	197	215	223
九州	18,411	18,565	18,302	20,612
福岡	10,779	10,627	9,948	11,717
佐賀	274	252	229	245
長崎	1,445	1,720	1,648	1,712
熊本	717	863	986	986
大分	3,417	3,245	3,420	3,561
宮崎	180	222	257	387
鹿児島	968	901	877	890
沖縄	631	735	937	1,114
計	135,519	139,185	152,062	171,122

資料出典：「外国人留学生在籍状況調査結果（各年5月1日時点）」独立行政法人 日本学生支援機構 より加工

参考資料 2) 外国人留学生の卒業(修了)後の進路状況

大学および大学院（以下、大学以上）を卒業（修了）後の進路をしてみる。

卒業（修了）後、日本国内に留まっている割合を見ると、2014年度では56.9%で、出身国（地域）は34.9%、日本・出身国（地域）以外は2.1%である。

日本国内を見ると、就職しているのは約3割で、進学が1.5割となっている。

■ 外国人留学生の卒業(修了)後の進路状況

□2014年度 上段: 留学生数(人)
大卒求人倍率 2015年卒: 1.61倍 下段: 構成比

	日本国内				出身国(地域)				日本・出身国(地域)以外				小計	不明	卒業(修了)留学生総数
	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計			
大学	3,987	2,084	1,171	7,242	970	127	2,973	4,070	32	140	72	244	11,556	641	12,197
	32.7%	17.1%	9.6%	59.4%	8.0%	1.0%	24.4%	33.4%	0.3%	1.1%	0.6%	2.0%	94.7%	5.3%	100%
修士課程	2,545	1,423	981	4,949	1,183	97	1,551	2,831	51	41	53	145	7,925	521	8,446
	30.1%	16.8%	11.6%	58.6%	14.0%	1.1%	18.4%	33.5%	0.6%	0.5%	0.6%	1.7%	93.8%	6.2%	100%
博士課程	422	44	760	1,226	776	21	535	1,332	33	2	71	106	2,664	257	2,921
	14.4%	1.5%	26.0%	42.0%	26.6%	0.7%	18.3%	45.6%	1.1%	0.1%	2.4%	3.6%	91.2%	8.8%	100%
大学以上計	6,954	3,551	2,912	13,417	2,929	245	5,059	8,233	116	183	196	495	22,145	1,419	23,564
	29.5%	15.1%	12.4%	56.9%	12.4%	1.0%	21.5%	34.9%	0.5%	0.8%	0.8%	2.1%	94.0%	6.0%	100%

□2013年度 大卒求人倍率 2014年卒: 1.28倍

	日本国内				出身国(地域)				日本・出身国(地域)以外				小計	不明	卒業(修了)留学生総数
	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計			
大学	3,896	2,300	1,889	8,085	1,091	102	3,576	4,769	22	177	69	268	13,122	685	13,807
	28.2%	16.7%	13.7%	58.6%	7.9%	0.7%	25.9%	34.5%	0.2%	1.3%	0.5%	1.9%	95.0%	5.0%	100%
修士課程	2,467	1,504	1,207	5,178	1,275	82	1,930	3,287	45	60	78	183	8,648	605	9,253
	26.7%	16.3%	13.0%	56.0%	13.8%	0.9%	20.9%	35.5%	0.5%	0.6%	0.8%	2.0%	93.5%	6.5%	100%
博士課程	512	43	669	1,224	843	10	578	1,431	45	5	110	160	2,815	234	3,049
	16.8%	1.4%	21.9%	40.1%	27.6%	0.3%	19.0%	46.9%	1.5%	0.2%	3.6%	5.2%	92.3%	7.7%	100%
大学以上計	6,875	3,847	3,765	14,487	3,209	194	6,084	9,487	112	242	257	611	24,585	1,524	26,109
	26.3%	14.7%	14.4%	55.5%	12.3%	0.7%	23.3%	36.3%	0.4%	0.9%	1.0%	2.3%	94.2%	5.8%	100%

□2012年度 大卒求人倍率 2013年卒: 1.27倍

	日本国内				出身国(地域)				日本・出身国(地域)以外				小計	不明	卒業(修了)留学生総数
	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計			
大学	3,337	2,224	1,614	7,175	1,016	87	3,153	4,256	22	147	54	223	11,654	939	12,593
	26.5%	17.7%	12.8%	57.0%	8.1%	0.7%	25.0%	33.8%	0.2%	1.2%	0.4%	1.8%	92.5%	7.5%	100%
修士課程	2,393	1,574	1,153	5,120	1,294	91	1,757	3,142	48	53	43	144	8,406	842	9,248
	25.9%	17.0%	12.5%	55.4%	14.0%	1.0%	19.0%	34.0%	0.5%	0.6%	0.5%	1.6%	90.9%	9.1%	100%
博士課程	483	40	700	1,223	892	16	591	1,499	50	5	51	106	2,828	314	3,142
	15.4%	1.3%	22.3%	38.9%	28.4%	0.5%	18.8%	47.7%	1.6%	0.2%	1.6%	3.4%	90.0%	10.0%	100%
大学以上計	6,213	3,838	3,467	13,518	3,202	194	5,501	8,897	120	205	148	473	22,888	2,095	24,983
	24.9%	15.4%	13.9%	54.1%	12.8%	0.8%	22.0%	35.6%	0.5%	0.8%	0.6%	1.9%	91.6%	8.4%	100%

次ページへ続く

注)

※ 構成比は、「卒業(修了)留学生総数」に対する割合で算出。

※ 「その他」には、卒業(修了)後引き続き就職活動中の者等を含む。

※ 「不明」は、進路がわからない者。

※ 卒業(修了)留学生総数には、標準修業年限を超えて在学した者を含む。

※ 「博士課程」には、単位取得退学者を含む。

※ 「大学以上計」は、「大学」「修士課程」「博士課程」を単純加算したもの。

参考資料 2) 外国人留学生の進路状況

前ページより続き

□2011年度 大卒求人倍率 2012年卒:1.23倍

	日本国内				出身国(地域)				日本・出身国(地域)以外				小計	不明	卒業(修了)留学生総数
	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計			
大学	2,952	2,282	1,651	6,885	1,053	71	2,926	4,050	30	121	129	280	11,215	904	12,119
	24.4%	18.8%	13.6%	56.8%	8.7%	0.6%	24.1%	33.4%	0.2%	1.0%	1.1%	2.3%	92.5%	7.5%	100%
修士課程	2,340	1,624	1,227	5,191	1,279	69	1,718	3,066	43	54	40	137	8,394	967	9,361
	25.0%	17.3%	13.1%	55.5%	13.7%	0.7%	18.4%	32.8%	0.5%	0.6%	0.4%	1.5%	89.7%	10.3%	100%
博士課程	777	53	381	1,211	964	31	560	1,555	49	9	29	87	2,853	334	3,187
	24.4%	1.7%	12.0%	38.0%	30.2%	1.0%	17.6%	48.8%	1.5%	0.3%	0.9%	2.7%	89.5%	10.5%	100%
大学以上計	6,069	3,959	3,259	13,287	3,296	171	5,204	8,671	122	184	198	504	22,462	2,205	24,667
	24.6%	16.0%	13.2%	53.9%	13.4%	0.7%	21.1%	35.2%	0.5%	0.7%	0.8%	2.0%	91.1%	8.9%	100%

□2010年度 大卒求人倍率 2011年卒:1.28倍

	日本国内				出身国(地域)				日本・出身国(地域)以外				小計	不明	卒業(修了)留学生総数
	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計			
大学	2,549	2,327	1,807	6,683	761	70	2,647	3,478	23	83	32	138	10,299	905	11,204
	22.8%	20.8%	16.1%	59.6%	6.8%	0.6%	23.6%	31.0%	0.2%	0.7%	0.3%	1.2%	91.9%	8.1%	100%
修士課程	1,913	1,712	920	4,545	1,291	77	1,514	2,882	35	45	45	125	7,552	920	8,472
	22.6%	20.2%	10.9%	53.6%	15.2%	0.9%	17.9%	34.0%	0.4%	0.5%	0.5%	1.5%	89.1%	10.9%	100%
博士課程	593	74	307	974	705	17	452	1,174	79	6	46	131	2,279	207	2,486
	23.9%	3.0%	12.3%	39.2%	28.4%	0.7%	18.2%	47.2%	3.2%	0.2%	1.9%	5.3%	91.7%	8.3%	100%
大学以上計	5,055	4,113	3,034	12,202	2,757	164	4,613	7,534	137	134	123	394	20,130	2,032	22,162
	22.8%	18.6%	13.7%	55.1%	12.4%	0.7%	20.8%	34.0%	0.6%	0.6%	0.6%	1.8%	90.8%	9.2%	100%

□2009年度 大卒求人倍率 2010年卒:1.62倍

	日本国内				出身国(地域)				日本・出身国(地域)以外				小計	不明	卒業(修了)留学生総数
	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計			
大学	2,374	2,792	1,715	6,881	577	60	2,126	2,763	15	93	36	144	9,788	912	10,700
	22.2%	26.1%	16.0%	64.3%	5.4%	0.6%	19.9%	25.8%	0.1%	0.9%	0.3%	1.3%	91.5%	8.5%	100%
修士課程	1,555	1,784	871	4,210	1,015	60	1,280	2,355	24	27	56	107	6,672	733	7,405
	21.0%	24.1%	11.8%	56.9%	13.7%	0.8%	17.3%	31.8%	0.3%	0.4%	0.8%	1.4%	90.1%	9.9%	100%
博士課程	716	90	351	1,157	673	15	447	1,135	53	6	28	87	2,379	229	2,608
	27.5%	3.5%	13.5%	44.4%	25.8%	0.6%	17.1%	43.5%	2.0%	0.2%	1.1%	3.3%	91.2%	8.8%	100%
大学以上計	4,645	4,666	2,937	12,248	2,265	135	3,853	6,253	92	126	120	338	18,839	1,874	20,713
	22.4%	22.5%	14.2%	59.1%	10.9%	0.7%	18.6%	30.2%	0.4%	0.6%	0.6%	1.6%	91.0%	9.0%	100%

□2008年度 大卒求人倍率 2009年卒:2.14倍

	日本国内				出身国(地域)				日本・出身国(地域)以外				小計	不明	卒業(修了)留学生総数
	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計	就職	進学	その他	計			
大学	3,873	2,976	1,597	8,446	574	86	1,825	2,485	19	91	45	155	11,086	707	11,793
	32.8%	25.2%	13.5%	71.6%	4.9%	0.7%	15.5%	21.1%	0.2%	0.8%	0.4%	1.3%	94.0%	6.0%	100%
修士課程	2,063	1,669	797	4,529	914	51	971	1,936	32	37	42	111	6,576	550	7,126
	29.0%	23.4%	11.2%	63.6%	12.8%	0.7%	13.6%	27.2%	0.4%	0.5%	0.6%	1.6%	92.3%	7.7%	100%
博士課程	672	116	367	1,155	672	14	403	1,089	58	6	21	85	2,329	253	2,582
	26.0%	4.5%	14.2%	44.7%	26.0%	0.5%	15.6%	42.2%	2.2%	0.2%	0.8%	3.3%	90.2%	9.8%	100%
大学以上計	6,608	4,761	2,761	14,130	2,160	151	3,199	5,510	109	134	108	351	19,991	1,510	21,501
	30.7%	22.1%	12.8%	65.7%	10.0%	0.7%	14.9%	25.6%	0.5%	0.6%	0.5%	1.6%	93.0%	7.0%	100%

資料出典：「外国人留学生進路状況・学位授与状況調査」独立行政法人 日本学生支援機構 より抜粋し、加工
「大卒求人倍率(ワークス大卒求人倍率調査)」リクルートワークス研究所

参考資料 3) 出入国基本計画の変遷

第3次出入国基本計画 施行:2005年3月	第4次出入国基本計画 施行:2010年3月	第5次出入国基本計画 施行:2015年9月
I はじめに	I 第4次出入国管理基本計画策定に当たって	I 第5次出入国管理基本計画策定に当たって
II 外国人の入国・在留をめぐる顕著な状況 1 外国人の入国、在留及び不法滞在者の全般的な状況 (1) 外国人の入国の状況 (2) 外国人の在留の状況 (3) 不法滞在者の状況 2 在留資格別の状況 (1) 就労を目的とする外国人 (2) 学ぶことを目的とする外国人 (3) 身分又は地位に基づいて入国・在留する外国人 (4) 永住者	II 外国人の入国・在留等をめぐる状況 1 我が国に正規に入国・在留する外国人の状況等 (1) 全般的な状況 (2) 就労を目的とする外国人の状況 (3) 学ぶことを目的とする外国人の状況 (4) 身分又は地位に基づいて入国・在留する外国人の状況 2 我が国に不法入国・不法滞在等する外国人の状況等 (1) 個人識別情報を活用した上陸審査の状況 (2) 不法滞在者の状況 (3) 偽装滞在者等に係る在留資格取消しの状況 3 難民認定申請等の状況	II 外国人の入国・在留等をめぐる状況 1 我が国に正規に入国・在留する外国人の状況等 (1) 全般的な状況 (2) 就労を目的とする外国人の状況 (3) 学ぶことを目的とする外国人の状況 (4) 身分又は地位に基づいて入国・在留する外国人の状況 2 我が国に不法入国・不法滞在等する外国人の状況等 (1) 個人識別情報を活用した上陸審査の状況 (2) 不法滞在者の状況 (3) 偽装滞在者等に係る在留資格取消しの状況 3 難民認定申請等の状況
III 出入国管理行政の主要な課題と今後の方針 1 我が国が必要とする外国人の円滑な受入れ (1) 専門的、技術的分野における外国人労働者の受入れの推進 ア) 専門的、技術的分野における外国人労働者の受入れの基本的な対応 イ) 高度人材の受入れ促進 ア) 在留期間の伸長等 イ) 永住許可要件の緩和と明確化・透明化 (2) 人口減少時代への対応 (3) 観光等による国際交流の拡大 ア) 観光立国への貢献 イ) ワーキングホリデーの活用や拡大のための連携等 (4) 留学生、就学生の適正な受入れ (5) 研修・技能実習制度の適正化 ア) 制度の趣旨にのっとった運用の適正化 イ) 制度の見直し	III 出入国管理行政の主要な課題と今後の方針 1 我が国社会に活力をもたらす外国人の円滑な受入れ (1) 経済成長に寄与するなど社会のニーズにこたえる人材の受入れ ア) 高度人材に対するポイント制を活用した優遇制度の導入 イ) 経済社会状況の変化に対応した専門的・技術的分野の外国人の受入れの推進 ウ) 我が国の国家資格を有する医療・介護分野の外国人の受入れ (2) 日系人の受入れ (3) 国際交流の一層の推進 ア) 観光立国実現に向けた取組 イ) ワーキングホリデー制度等を通じた青少年交流の拡大 ウ) ビジネス関係者等の交流の一層の活発化 (4) 留学生の適正な受入れの推進 (5) 研修・技能実習制度の適正化への取組 ア) 技能実習生の保護に係る措置 イ) 団体による監理の強化、不正行為機関等への厳格な対応 ウ) 送出し機関の適正化、送出し国への働きかけの強化	III 出入国管理行政の主要な課題と今後の方針 1 我が国経済社会に活力をもたらす外国人の円滑な受入れ (1) 課題等 (2) 今後の方針 ア) 経済成長に寄与する人材の受入れ ① 経済社会状況の変化に対応した専門的・技術的分野の外国人の受入れの推進 ② 高度人材外国人の受入れの推進 ③ 緊急に対応が必要な分野等における外国人の受入れ イ) 留学生の適正な受入れの推進 2 少子高齢化の進展を踏まえた外国人の受入れについての国民的議論の活性化 3 新たな技能実習制度の構築に向けた取組 (1) 課題等 (2) 今後の方針 ア) 技能実習制度の適正化のための措置 イ) 制度本来の目的を踏まえた制度の拡充に係る見直し 4 在留管理制度の的確な運用等による外国人との共生社会実現への寄与 (1) 課題等 (2) 今後の方針 ア) 在留管理制度の的確な運用及びその見直し イ) 外国人との共生社会の実現に向けた取組

次ページへ続く

参考資料 3) 出入国基本計画の変遷

前ページより続き

第3次出入国基本計画 施行: 2005年3月	第4次出入国基本計画 施行: 2010年3月	第5次出入国基本計画 施行: 2015年9月
<p>(6) 長期にわたり我が国社会に在留する外国人への対応</p> <p>(7) 外国人の円滑な受入れのためのその他の課題</p> <p>2 強力な水際対策の推進及び不法滞在者の大幅な縮減を通じた我が国の治安を回復するための取組</p> <p>(1) 水際対策の推進 ア) 厳格な上陸審査等の実施 イ) バイオメトリクスを活用した出入国審査の導入 ウ) その他の新たな手法の導入</p> <p>(2) 厳格な在留審査</p> <p>(3) 綿密な情報分析と関係機関と連携した協力的な摘発</p> <p>(4) 収容施設の活用と早期送還の実施</p> <p>(5) 効率的な退去強制手続及び違反抑止のための制度の見直し</p> <p>(6) 法違反者の状況に配慮した取扱い ア) 我が国社会とのつながりを踏まえた対応 イ) 人身取引等の被害者への配慮</p> <p>3 その他の主要な課題</p> <p>(1) 出入国管理体制の整備</p> <p>(2) 国際協力の更なる推進</p> <p>(3) 新たな難民認定制度の適正な運用</p> <p>(4) 外国人登録制度の適正な運用</p>	<p>(6) 外国人の受入れについての国民的議論の活発化</p> <p>2 安全・安心な社会の実現に向けた不法滞在対策等の推進</p> <p>(1) 厳格な出入国審査等の水際対策の実施 ア) 個人識別情報を活用した上陸審査の推進 イ) 関係機関との連携による情報を活用した水際対策の強化 ウ) 船舶等を使った不法入国者への対策の強化</p> <p>(2) 国内に不法滞在・偽装滞在する者への対策の推進 ア) 不法滞在者・偽装滞在者に係る情報の収集・分析体制の整備等 イ) 積極的な摘発等の実施 ウ) 偽装滞在者に対する在留資格の取消し等の実施 エ) 警察等捜査機関との連携の強化 オ) 迅速な送還の実施</p> <p>(3) 被収容者の処遇の一層の適正化に向けた取組</p> <p>(4) 在留特別許可の適正な運用</p> <p>3 新たな在留管理制度の円滑な導入と同制度に基づく出入国管理行政の展開</p> <p>(1) 情報を活用した適正な在留管理の実現</p> <p>(2) 外国人との共生社会の実現に向けた取組</p> <p>4 難民の適正かつ迅速な庇護の推進</p> <p>(1) 適正かつ迅速な難民認定のための取組</p> <p>(2) 第三国定住による難民の受入れ</p> <p>5 その他</p> <p>(1) 出入国管理体制の整備</p> <p>(2) 国際協力の更なる推進</p> <p>(3) 人身取引被害者等への配慮</p> <p>(4) 外国人登録制度の適切な運用及び新制度への円滑な移行</p>	<p>5 観光立国実現に向けた取組</p> <p>(1) 課題等</p> <p>(2) 今後の方針 ア) 自動化ゲートの利用拡大 イ) クルーズ船の外国人旅客に係る入国審査手続の円滑化 ウ) その他の観光立国実現に資する取組</p> <p>6 安全・安心な社会の実現に向けた水際対策及び不法滞在対策等の推進</p> <p>(1) 課題等</p> <p>(2) 今後の方針 ア) テロリスト等の入国阻止に向けた厳格な出入国審査等水際対策の実施 ① 個人識別情報を活用した上陸審査の推進 ② 関係機関との連携による情報を活用した水際対策の強化 ③ 船舶等を使った不法入国者への対策の強化 イ) 国内に不法滞在・偽装滞在する者への対策の推進 ① 積極的な摘発等の実施 ② 偽装滞在者対策の強化 ③ 警察等捜査機関との連携の強化 ④ 被収容者の適正な処遇及び迅速な送還の実施 ウ) 出入国管理に関するインテリジェンス機能の強化 エ) 在留特別許可の適正な運用</p> <p>7 難民の適正かつ迅速な庇護の推進</p> <p>(1) 課題等</p> <p>(2) 今後の方針 ア) 適正かつ迅速な難民認定のための取組等 イ) 第三国定住による難民の受入れ</p> <p>8 その他</p> <p>(1) 出入国管理体制の整備</p> <p>(2) 国際協力の更なる推進</p> <p>(3) 人身取引被害者等への配慮</p>

資料出典：「出入国基本計画」法務省 より抜粋し、加工

参考資料 4) 「外国人留学生」に関連する文献

◆ 「外国人留学生の採用・就職に関するレポート」 (徳永英子、2017、就職みらい研究所サイト)

外国人留学生が、日本式の就職活動自体に対してや、募集職種、キャリアプランの提示が不明確に見え、「将来のキャリアイメージ」がつかないことで、依然として困惑している様子もうかがえる。面接時に「長期就業者ではない」と前提されていると感じ、戸惑う場面もあることから、日本人側がその前提を払拭することも重要。また、母国の先輩等より日本での働き方を聞いて参考にしていることから、外国人就業者の働き方も重要である。留学生の就職活動の戸惑いは、「日本語の壁」が起因となっている場合も少なくない。

◆ 『外国人留学生の受入れとアルバイトに関する近年の傾向について』 (志甫啓、2016、『日本労働研究雑誌』第662号)

日本における外国人留学生の受け入れについて、留学生の出身地が非漢字圏にシフトし、特にベトナムとネパールが急増している。日本との経済的な結び付きが強まっているベトナムとは異なり、ネパール人留学生が就職活動を経て就職先を見つけるのは容易ではない。アルバイト先への就職という可能性のあるアルバイトも存在し、このことは中長期的に重要であろう。留学生のアルバイトについては、彼らに対する労働需要があり、在学中に働けることが留学生を引き付ける要因となっていることも理解する必要がある。

◆ 『留学生との交流による日本人学生の変容—海外勤務志向への変化に着目して—』 (茂戸藤恵、2012、『Works Review』vol.7)

外国人留学生との交流により、日本人学生の価値観が変化すると、海外勤務志向へ変化しやすい傾向が明らかとなった。交流を通じて、活動の進め方に困難を感じ(前提)、新たな行動や役割を探索することで乗り越える。そして、価値観が変化し(過程)、海外勤務志向へ変化する(結果)。今後、留学生も増え、多国籍化することが予測される。大学は国際化の議論について、留学生の受け入れを数字中心から、受け入れインパクトを考慮した学習環境のデザインへ視点を移した方がいいと考える。

◆ 「国籍別にみた外国人留学生の滞在率とその規定要因」 (志甫啓、2016、『関西学院大学国際学部研究フォーラム国際学研究』vol.5 No1)

本稿では、OECDによる留学生の滞在率の推計に基づき、わが国で学ぶ中国・韓国・ベトナム・タイ・マレーシア・インドネシアからの留学生について、2007~2012年にかけての滞在率を国籍別に推計した。景気悪化の局面では全体的に滞在率が低下したが、その中で近年のベトナム人留学生の滞在率が力強く盛り返し、中国人留学生の滞在率を上回るに至っている。さらに、推計した滞在率の規定要因分析を試行したところ、日本が滞在率を引き上げる傾向が確認された。

◆ 「外国人留学生の就職・採用に関する研究—留学生の就職活動に対する“戸惑い”から考察—」 (徳永英子、2013、『Works Review』vol.8)

日本企業の外国人留学生採用について、日本人学生と同様に選考・採用されることに好感をもつ留学生もいる。その一方で、企業側にキャリアパスの提示を求めるが、提示はされないことも多いことに疑問を感じる。また、人事諸制度は、日本人基準のものとなっていることが多いため、不公平感をもつ。留学生を取り巻く就職環境は、留学生と企業とのギャップだけではなく、留学生と大学、企業のなかでも、人事と現場にもギャップが見られるなど、複雑な様となっていることが確認された。

◇ 『平成26年度 経済産業省委託調査 平成26年度産業経済研究委託事業 外国人留学生の就職及び定着状況に関する調査 報告書』 (新日本有限責任監査法人、2015)

◇ 『平成23年度 文部科学省先導的の大学改革推進委託事業 各国政府外国人留学生奨学金等による修了生へのフォローアップ方策に関する調査研究—主要な各国政府、海外の主要大学の取り組み—』 (立命館大学、2012)

◇ 『平成19年度 文部科学省先導的の大学改革推進経費による委託研究 年間を通じた外国人留学生受入れの実態調査』 (一橋大学、2008)



『Works Review』 vol.8
「グローバル採用から考える、これからの人事戦略」
リクルートワークス研究所 2013年発行

掲載の一部を紹介)

- 日本の大卒就職市場の真の課題は何か？
—アジア主要国のキャリア選択行動比較—
- どのような外国人が日系企業で働きたいと思うか
—東南アジア諸国とインドを中心として—
- インドにおける新卒エンジニアの採用
—大学・カレッジと採用方法の特殊性を探る—



『アジア・トップ大学生の就職実態を探求する』
リクルートワークス研究所 2013年発行

内容)

- アジア6か国総勢74名のトップ大学生へのインタビューの分析結果をまとめたもの
- アジア主要国の大卒市場の構造把握
- 日本との対比

外国人留学生の採用・就職に関するデータ集

2017年6月

株式会社リクルートキャリア

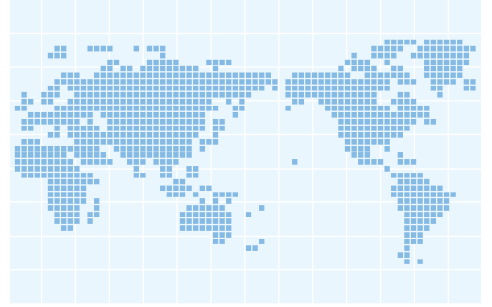
就職みらい研究所

<http://data.recruitcareer.co.jp>

【転載等の連絡先】

株式会社リクルートキャリア 広報部 社外広報グループ宛

Mail : kouho@waku-2.com



外国人留学生の採用・就職に関するデータ集
2017年6月発行
株式会社リクルートキャリア
就職みらい研究所
<http://data.recruitcareer.co.jp/>